

科目名称	生涯学習論 I		
科目分類	100-121-11	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Life-Long Education Studies I	授業区分	講義
科目責任者	山本 双葉	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山本 双葉	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 11:00～14:00 後期 木曜日 11:00～14:00	研究室	16-316
授業概要	<p>本授業は、生涯学習の意義・目的や定義を学び、生涯学習社会の実現について討論することから始める。また、生涯学習の基礎理論や歴史的背景を学び、生涯学習の多様な在り方についての理解を深める。そして、国際社会が目指す人間像や生涯「学修」の特性を踏まえ、自身の長期的な学修課題について考察を深めていく。</p> <p>そのため、講義毎に「学びのドキュメンテーション」を作成することを求める。自身の学修プロセスの記録や振り返りを通じ、学修課題の明確化に役立ててほしい。</p>		
到達目標	<p>本授業では、生涯学習の基礎理論や歴史的背景を学びながら、自発的意志に基づく「学修」の特性を体得することを目指す。具体的な到達目標として、以下の4点を挙げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯学習の歴史的背景や基礎理論に関する知識を修得することができる 2. 現代的課題に応じた生涯学習の内容を理解することができる 3. 生涯学習における多様な学習方法を理解することができる 4. 生涯学習の意義や目的を踏まえ、自発的意思に基づく「学修」の特性を体得することができる 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：「生涯学習」の意味を調べ、ノートにまとめる 授業：生涯学習の意義・目的と定義を学ぶ 復習：生涯学習を学ぶ意味を振り返る</p> <p>【第2回】 予習：「生涯学習社会」の意味を調べ、ノートにまとめる 授業：生涯学習社会の実現について考察する 復習：生涯学習社会の果たす役割について整理する</p> <p>【第3回】 予習：学校や家庭、地域社会で受けてきた教育による自分の育ちを振り返り、身に付けた力をノートに書き出す 授業：学校教育・家庭教育・社会教育の関連性を学ぶ 復習：生涯学習が行われる場所の違いによる学修内容の違いを整理する</p> <p>【第4回】 予習：社会人や高齢者が取り組んでいる生涯学習活動について調べ、ノートにまとめる 授業：生涯学習の基礎理論①を学ぶ（教育学，成人教育学，教育老年学） 復習：「ペタゴジー」「アンドラゴジー」「ジェロゴジー」の意味の違いを整理する</p> <p>【第5回】 予習：「リカレント教育」について調べ、ノートにまとめる 授業：生涯学習の基礎理論②を学ぶ（統合・循環・解放の理論） 復習：「統合」「解放」「循環」による生涯学習の基礎理論を整理する</p> <p>【第6回】 予習：「ライフサイクル理論」について調べ、ノートにまとめる 授業：生涯にわたる人間形成の理論を学ぶ（ライフサイクル理論，発達課題など） 復習：孔子やコメニウスの発達観、エリクソンやハヴィガーストの発達理論を整理する</p> <p>【第7回】 予習：「寺子屋」や「私塾」について調べ、ノートにまとめる 授業：日本における生涯学習の誕生と展開を学ぶ 復習：日本における生涯学習の展開について時代別に整理する</p> <p>【第8回】 予習：イギリスの「コーヒーハウス」について調べ、ノートにまとめる 授業：欧米における生涯学習の誕生と展開を学ぶ 復習：ドイツ・フランス・イギリス・アメリカ・ブラジルにおける生涯学習の展開を整理する</p> <p>【第9回】 予習：Well-Being について調べ、ノートにまとめる 授業：現代の生涯学習の内容を学ぶ①（生きがい，身体・精神的健康，まちづくり） 復習：「生きがい」「身体・精神的健康」「まちづくり」の生涯学習について整理する</p> <p>【第10回】 予習：少子高齢化社会の課題について調べ、ノートにまとめる</p>			

<p>授業：現代の生涯学習の内容を学ぶ②（少子高齢化，消費・環境問題，男女共同参画，国際化） 復習：「少子高齢化」「消費・環境問題」「男女共同参画」「国際化」の生涯学習について整理する 【第11回】 予習：これまで受けてきた授業について振り返り、理解しやすかった授業の特徴をノートに書き出す 授業：生涯学習の多様な学習方法を学ぶ①（学習方法の種類，講義型・討論型） 復習：講義型・討論型による学習の長所と短所を整理する 【第12回】 予習：これまで参加してきた体験活動をノートに書き出す【グループワーク】 授業：生涯学習の多様な学習方法を学ぶ②（体験型・実験型・ブレインストーミング） 復習：体験型・実験型・ブレインストーミングによる学習の長所と短所を整理する 【第13回】 予習：「キー・コンピテンシー」の意味を調べ、ノートにまとめる 授業：生涯学習社会が目指す人間像を学ぶ①（国際的な能力基準「キー・コンピテンシー」） 復習：現在の自己の能力と「キー・コンピテンシー」を比較する 【第14回】 予習：「社会人基礎力」の意味を調べ、ノートにまとめる 授業：生涯学習社会が目指す人間像を学ぶ②（職業能力の育成「社会人基礎力」） 復習：現在の自己の能力と「社会人基礎力」を比較する 【第15回】 予習：これまでの授業で取り上げた内容を振り返り、疑問点をノートにまとめておく 授業：自発的意思に基づく「学修」の特性を振り返る（自身の学修課題の明確化）及び最終試験 復習：自身の興味・関心が高い事柄について生涯学習を進める</p>								
授業開始前学習	生涯学習に関する書籍を講読する							
授業内課題の フィードバックの方法	講義毎に小レポートを実施する（翌週の講義内にて、適宜、講評する）。							
テキスト・教材	香川正弘・鈴木眞理・佐々木英和編『よくわかる生涯学習』（ミネルヴァ書房）							
参考書	関口礼子・小池源吾・西岡正子・鈴木志元・堀薫夫著『新しい時代の生涯学習』（有斐閣アルマ）							
評価の基準と方法	講義毎の小レポート（60%），最終試験（40%）							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性を身につける		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性を身につける		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力を身につける		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力を身につける	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○	○		
関連科目	学芸員養成課程と教職課程に位置づく本科目は、他の博物館に関する科目や教職科目と関連している。特に、生涯学習の意義・目的、生涯学習社会の理念を踏まえた学びが展開される科目との有機的関連性は高い。							
その他	図書館や博物館など、生涯学習の拠点となる身近な施設を訪れること 日常生活の中から湧き出た疑問を解決するクセをつけること							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	☆博物館概論		
科目分類	110-411-11 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Introduction to Museology	授業区分	講義
科目責任者	下川 雅弘	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	下川 雅弘	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-706
授業概要	本講義では、博物館学とは何か、博物館の定義・種類・目的・機能についての概要を学習した後に、日本および諸外国の博物館の歴史、博物館を取り巻く現状と課題、学芸員の役割と実態について授業を行う。授業では課題解決型学習を行う。		
到達目標	1、博物館に関する基礎的な知識を修得する。 2、博物館および学芸員に課せられた役割とは何かについて理解できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：博物館の定義と目的について教科書の空欄を穴埋めする 授業：博物館の定義と目的（教科書2頁から5頁）（課題解決型学習） 復習：博物館の定義と目的について要点を整理する</p> <p>【第2回】 予習：博物館学とは何かについて教科書の空欄を穴埋めする 授業：博物館学とは何か（教科書6頁から7頁） 復習：博物館学とは何かについて要点を整理する</p> <p>【第3回】 予習：博物館の基本的機能と学芸員の役割について教科書の空欄を穴埋めする 授業：博物館の基本的機能と学芸員の役割（教科書8頁から14頁）（課題解決型学習） 復習：博物館の基本的機能と学芸員の役割について要点を整理する</p> <p>【第4回】 予習：博物館の種類について教科書の空欄を穴埋めする 授業：博物館の種類（教科書15頁から17頁）（課題解決型学習） 復習：博物館の種類について要点を整理する</p> <p>【第5回】 予習：博物館を支える仕組みについて教科書の空欄を穴埋めする 授業：博物館を支える仕組み（教科書18頁から19頁） 復習：博物館を支える仕組みについて要点を整理する</p> <p>【第6回】 予習：博物館組織と博物館を支える人々について教科書の空欄を穴埋めする 授業：博物館組織と博物館を支える人々（教科書20頁から21頁） 復習：博物館組織と博物館を支える人々について要点を整理する</p> <p>【第7回】 予習：博物館の起源と欧米の博物館の歴史について教科書の空欄を穴埋めする 授業：博物館の起源と欧米の博物館の歴史（教科書22頁から24頁） 復習：博物館の起源と欧米の博物館の歴史について要点を整理する</p> <p>【第8回】 予習：日本の博物館の歴史について教科書の空欄を穴埋めする 授業：日本の博物館の歴史（教科書25頁から29頁） 復習：日本の博物館の歴史について要点を整理する</p> <p>【第9回】 予習：文化財保護制度の歴史について教科書の空欄を穴埋めする 授業：文化財保護制度の歴史（教科書30頁から31頁） 復習：文化財保護制度の歴史について要点を整理する</p> <p>【第10回】 予習：文化財保護の体系について教科書の空欄を穴埋めする 授業：文化財保護の体系（教科書32頁から38頁） 復習：文化財保護の体系について要点を整理する</p> <p>【第11回】 予習：文化財保護と博物館について教科書の空欄を穴埋めする 授業：文化財保護と博物館（教科書39頁から42頁）（課題解決型学習） 復習：文化財保護と博物館について要点を整理する</p> <p>【第12回】 予習：学校教育と博物館について教科書の空欄を穴埋めする 授業：学校教育と博物館（教科書43頁から44頁）（課題解決型学習） 復習：学校教育と博物館について要点を整理する</p>			

<p>【第13回】 予習：生涯学習と博物館について教科書の空欄を穴埋めする 授業：生涯学習と博物館（教科書45頁から47頁）（課題解決型学習） 復習：生涯学習と博物館について要点を整理する</p> <p>【第14回】 予習：博物館の現状と行政改革について教科書の空欄を穴埋めする 授業：博物館の現状と行政改革（教科書頁48から50頁）（課題解決型学習） 復習：博物館の現状と行政改革について要点を整理する</p> <p>【第15回】 予習：期待される博物館について教科書の空欄を穴埋めする 授業：期待される博物館（教科書51頁から53頁） 復習：期待される博物館について要点を整理する</p>								
授業開始前学習	普段からできる限り多くの博物館を訪れることが望ましい。また、文部科学省令必修科目共通テキストをあらかじめ読んでおく。							
授業内課題の フィードバックの方法	提出課題に対しては、翌週以降に全体の講評や必要なコメントを行うとともに、個別の質問にも回答する。							
テキスト・教材	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版） 駒沢女子大学教科書シリーズ『博物館概論』 駒沢女子大学講義ノートシリーズ『博物館実習』							
参考書								
評価の基準と方法	提出課題70%、授業内テスト30%により評価する。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△				◎	○	◎	
関連科目	「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」「博物館情報・メディア論」「博物館実習」が文部科学省令必修科目として相互に関連する。							
その他	1年次4月から学芸員養成課程に登録していることを履修の条件とする。条件に当てはまらない者がこの科目を履修登録した場合、本人の了解を得ずに登録が抹消されるので注意すること。							
予習・復習の 所要時間	講義時間30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間60時間（4時間×15週）							
実務経験を活かした 教育内容	自治体史編纂の実務経験あり。博物館の概要や学芸員の役割などを講義する。							

科目名称	☆博物館資料論		
科目分類	110-411-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Museum Collection and Information Management	授業区分	講義
科目責任者	井本 悠紀	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	井本 悠紀	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	本講義では、博物館資料に対する基本的な考え方を学習した後に、歴史・考古・民俗・美術資料を中心として、人文系博物館資料の収集理念、分類・整理・取り扱い、情報公開等の方法論を学ぶとともに、人文系博物館における調査研究活動の実際について授業を行う。授業では課題解決型学習を行う。		
到達目標	1、博物館資料の収集、整理保存、情報管理の方法等を習得する。 2、博物館資料に対する理論・知識・技術を含めた基礎的な能力を身に付ける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：博物館資料とは何かについて教科書で調べる 授業：博物館資料とは何か（教科書 94 頁から 96 頁） 復習：博物館資料とは何かについてノートに要点を整理する</p> <p>【第2回】 予習：人文系博物館資料収集の理念と方法について教科書で調べる 授業：人文系博物館資料収集の理念と方法（教科書 97 頁から 100 頁） 復習：人文系博物館資料収集の理念と方法についてノートに要点を整理する</p> <p>【第3回】 予習：博物館資料の関連法規について教科書で調べる 授業：博物館資料の関連法規（教科書 102 頁から 103 頁） 復習：博物館資料の関連法規についてノートに要点を整理する</p> <p>【第4回】 予習：人文系博物館資料の分類方法について教科書で調べる 授業：人文系博物館資料の分類方法（教科書 103 頁から 106 頁） 復習：人文系博物館資料の分類方法についてノートに要点を整理する</p> <p>【第5回】 予習：人文系博物館資料の整理方法について教科書で調べる 授業：人文系博物館資料の整理方法（教科書 108 頁から 110 頁）（課題解決型学習） 復習：人文系博物館資料の整理方法についてノートに要点を整理する</p> <p>【第6回】 予習：人文系博物館における調査・研究について教科書で調べる 授業：人文系博物館における調査・研究（教科書 113 頁から 115 頁）（課題解決型学習） 復習：人文系博物館における調査・研究についてノートに要点を整理する</p> <p>【第7回】 予習：人文系博物館資料の調査・研究について教科書で調べる 授業：人文系博物館資料の調査・研究（教科書 117 頁から 120 頁） 復習：人文系博物館資料の調査・研究についてノートに要点を整理する</p> <p>【第8回】 予習：人文系博物館資料活用法の調査・研究について教科書で調べる 授業：人文系博物館資料活用法の調査・研究（教科書 122 頁から 124 頁）（課題解決型学習） 復習：人文系博物館資料活用法の調査・研究についてノートに要点を整理する</p> <p>【第9回】 予習：美術系資料の取り扱いについて教科書で調べる 授業：美術系資料の取り扱い（教科書 127 頁から 129 頁） 復習：美術系資料の取り扱いについてノートに要点を整理する</p> <p>【第10回】 予習：考古・民俗系資料の取り扱いについて教科書で調べる 授業：考古・民俗系資料の取り扱い（教科書 129 頁から 131 頁） 復習：考古・民俗系資料の取り扱いについてノートに要点を整理する</p> <p>【第11回】 予習：古文書・アーカイブス資料について教科書で調べる 授業：古文書・アーカイブス資料（教科書 131 頁から 133 頁） 復習：古文書・アーカイブス資料についてノートに要点を整理する</p> <p>【第12回】 予習：博物館資料の保存・修復について教科書で調べる 授業：博物館資料の保存・修復（教科書 137 頁から 138 頁） 復習：博物館資料の保存・修復についてノートに要点を整理する</p> <p>【第13回】</p>			

予習：博物館資料と情報について教科書で調べる 授業：博物館資料と情報（教科書 139 頁から 140 頁） 復習：博物館資料と情報についてノートに要点を整理する 【第 14 回】 予習：博物館資料の可能性について教科書で調べる 授業：博物館資料の可能性（教科書 141 頁から 143 頁） 復習：博物館資料の可能性についてノートに要点を整理する 【第 15 回】 予習：博物館資料論で学習したすべての範囲を教科書で確認する 授業：博物館資料論で学習した内容の要点整理 復習：博物館資料論で学習した内容の要点をノートに整理する								
授業開始前学習	日頃から博物館に出向き、展示や諸活動を体験するなどして博物館・学芸員の仕事に興味を持つようにする。また展示を観覧するだけでなく、各館が抱える問題点など課題を見つける視点をもつことも大事である。							
授業内課題のフィードバックの方法	提出課題に対しては翌週以降に全体講評やコメントを行い、かつ必要に応じて個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版）							
参考書								
評価の基準と方法	授業内試験・レポート（70%）、課題等（30%）							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成	自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成	社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成	文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	◎	△
関連科目	「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」「博物館情報・メディア論」「博物館実習」が文部科学省令必修科目として相互に関連する。							
その他	1 年次 4 月から学芸員養成課程に登録していることを履修の条件とする。条件に当てはまらない者がこの科目を履修登録した場合、本人の了解を得ずに登録が抹消されるので注意すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	博物館学芸員としての実務経験を活かし、博物館資料の特性や課題などについて講義をおこなう。							

科目名称	博物館展示論		
科目分類	110-411-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Museum Display Theory	授業区分	講義
科目責任者	岸川 雅範	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	岸川 雅範	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	本講義では、博物館展示の歴史や社会的役割について学習した後、展示資料の調査と選定、展示の設計、配置・導線計画、照明と音響、展示パネルや解説書の作成といった、展示に必要な技術や方法論について授業を行う。授業では感染症に対する安全性が確保できる場合に限り、ディスカッション、課題解決型学習を行う。		
到達目標	歴史的観点や教育論的観点から博物館の展示について学ぶとともに、人文系の博物館を想定しながら、展示の諸形態を理解し、展示の方法・技術を習得し、博物館展示に関する基礎的な能力を身に付ける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：展示とは何かについて教科書で調べる 授業：展示とは何か（教科書 188 頁から 189 頁） 復習：展示とは何かについてノートに要点を整理する</p> <p>【第2回】 予習：展示の歴史について教科書で調べる 授業：展示の歴史（教科書 189 頁から 191 頁） 復習：展示の歴史についてノートに要点を整理する</p> <p>【第3回】 予習：展示資料の調査と収集について教科書で調べる 授業：展示資料の調査と収集（教科書 192 頁から 194 頁） 復習：展示資料の調査と収集についてノートに要点を整理する</p> <p>【第4回】 予習：展示の構想と企画について教科書で調べる 授業：展示の構想と企画（教科書 194 頁から 196 頁） 復習：展示の構想と企画についてノートに要点を整理する</p> <p>【第5回】 予習：展示の設計と施行について教科書で調べる 授業：展示の設計と施行（教科書 196 頁から 200 頁） 復習：展示の設計と施行についてノートに要点を整理する</p> <p>【第6回】 予習：展示と法令について教科書で調べる 授業：展示と法令（教科書 200 頁から 201 頁） 復習：展示と法令についてノートに要点を整理する</p> <p>【第7回】 予習：展示の環境と整備について教科書で調べる 授業：展示の環境と整備（教科書 202 頁から 204 頁） 復習：展示の環境と整備についてノートに要点を整理する</p> <p>【第8回】 予習：展示作業について教科書で調べる 授業：展示作業（教科書 204 頁から 206 頁） 復習：展示作業についてノートに要点を整理する</p> <p>【第9回】 予習：展示の照明と音響について教科書で調べる 授業：展示の照明と音響（教科書 206 頁から 210 頁） 復習：展示の照明と音響についてノートに要点を整理する</p> <p>【第10回】 予習：展示と解説について教科書で調べる 授業：展示と解説（教科書 210 頁から 212 頁） 復習：展示と解説についてノートに要点を整理する</p> <p>【第11回】 予習：展示解説書の作成について教科書で調べる 授業：展示解説書の作成（教科書 212 頁から 214 頁） 復習：展示解説書の作成についてノートに要点を整理する</p> <p>【第12回】 予習：人文系の展示について教科書で調べる 授業：人文系の展示（教科書 215 頁から 219 頁）（課題解決型学習） 復習：人文系の展示についてノートに要点を整理する</p> <p>【第13回】</p>			

<p>予習：展示の社会性と中立性について教科書で調べる 授業：展示の社会性と中立性（教科書 227 頁から 229 頁）（課題解決型学習） 復習：展示の社会性と中立性についてノートに要点を整理する 【第 14 回】 予習：展示の評価について教科書で調べる 授業：展示の評価（教科書 229 頁から 231 頁） 復習：展示の評価についてノートに要点を整理する 【第 15 回】 予習：博物館展示論で学習したすべての範囲を教科書で確認する 授業：博物館展示論で学習した内容の要点整理 復習：博物館展示論で学習した内容の要点をノートに整理する</p>								
授業開始前学習	普段からできる限り多くの博物館を訪れることが望ましい。また、文部科学省令必修科目共通テキストをあらかじめ読んでおく。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業での提出課題については、翌週以降に全体の講評や必要なコメントを行うとともに、個別の質問にも回答する。							
テキスト・教材	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版）							
参考書	参考書は、授業の中で随時紹介する。							
評価の基準と方法	授業内試験・レポート（70%）、課題等（30%）							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成	自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成	社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成			文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	◎	△
関連科目	「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館教育論」「博物館情報・メディア論」「博物館実習」が文部科学省令必修科目として相互に関連する。							
その他	1 年次 4 月から学芸員養成課程に登録していることを履修の条件とする。条件に当てはまらない者がこの科目を履修登録した場合、本人の了解を得ずに登録が抹消されるので注意すること。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	博物館（社内内の博物館）の実務経験あり。博物館展示の方法・技術等を講義する。							

科目名称	博物館資料保存論		
科目分類	110-411-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Museum Resource Conservation Theory	授業区分	講義
科目責任者	井本 悠紀	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	井本 悠紀	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	本講義では、博物館における資料保存の意義、資料の現状調査、資料の修理と修復、資料の梱包と輸送、資料の保存環境（劣化条件・災害対策・総合的有害生物管理等）、環境保護と博物館の役割等について、実際の博物館資料や施設を事例としながら授業を行う。授業では課題解決型学習を行う。		
到達目標	1、資料の保存に関する基礎的な能力を養う。 2、博物館における資料保存の基本を学び、展示環境・収蔵環境を科学的にとらえ、資料を良好な状態でつぎの世代に引き継いでいくための知識を習得する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：博物館資料保存の基本的理念について教科書で調べる 授業：博物館資料保存の基本的理念（教科書 146 頁から 148 頁） 復習：博物館資料保存の基本的理念についてノートに要点を整理する</p> <p>【第2回】 予習：博物館資料保存をめぐる法的・社会的環境について教科書で調べる 授業：博物館資料保存をめぐる法的・社会的環境（教科書 148 頁から 149 頁） 復習：博物館資料保存をめぐる法的・社会的環境についてノートに要点を整理する</p> <p>【第3回】 予習：博物館資料の種類と保存方法について教科書で調べる 授業：博物館資料の種類と保存方法（教科書 150 頁から 154 頁） 復習：博物館資料の種類と保存方法についてノートに要点を整理する</p> <p>【第4回】 予習：博物館資料の修理・修復と二次資料について教科書で調べる 授業：博物館資料の修理・修復と二次資料（教科書 156 頁から 158 頁） 復習：博物館資料の修理・修復と二次資料についてノートに要点を整理する</p> <p>【第5回】 予習：収蔵・展示施設と保存環境について教科書で調べる 授業：収蔵・展示施設と保存環境（教科書 159 頁から 161 頁） 復習：収蔵・展示施設と保存環境についてノートに要点を整理する</p> <p>【第6回】 予習：科学的保存の技術と方法について教科書で調べる 授業：科学的保存の技術と方法（教科書 161 頁から 163 頁） 復習：科学的保存の技術と方法についてノートに要点を整理する</p> <p>【第7回】 予習：資料保存の諸条件と劣化について教科書で調べる 授業：資料保存の諸条件と劣化（教科書 163 頁から 166 頁）（課題解決型学習） 復習：資料保存の諸条件と劣化についてノートに要点を整理する</p> <p>【第8回】 予習：生物被害に対する保全と保存について教科書で調べる 授業：生物被害に対する保全と保存（教科書 166 頁から 168 頁）（課題解決型学習） 復習：生物被害に対する保全と保存についてノートに要点を整理する</p> <p>【第9回】 予習：資料の梱包と運搬方法について教科書で調べる 授業：資料の梱包と運搬方法（教科書 169 頁から 171 頁） 復習：資料の梱包と運搬方法についてノートに要点を整理する</p> <p>【第10回】 予習：博物館における資料保存の実態と実例について教科書で調べる 授業：博物館における資料保存の実態と実例（教科書 172 頁から 174 頁） 復習：博物館における資料保存の実態と実例についてノートに要点を整理する</p> <p>【第11回】 予習：宗教関係資料に対する信仰と保全・保存について教科書で調べる 授業：宗教関係資料に対する信仰と保全・保存（教科書 176 頁から 178 頁） 復習：宗教関係資料に対する信仰と保全・保存についてノートに要点を整理する</p> <p>【第12回】 予習：地域資源としての博物館資料の保存と活用について教科書で調べる 授業：地域資源としての博物館資料の保存と活用（教科書 179 頁から 181 頁） 復習：地域資源としての博物館資料の保存と活用についてノートに要点を整理する</p> <p>【第13回】</p>			

予習：災害と博物館資料について教科書で調べる 授業：災害と博物館資料（教科書 181 頁から 184 頁）（課題解決型学習） 復習：災害と博物館資料についてノートに要点を整理する 【第 14 回】 予習：環境保護と博物館の役割について教科書で調べる 授業：環境保護と博物館の役割（教科書 184 頁から 186 頁） 復習：環境保護と博物館の役割についてノートに要点を整理する 【第 15 回】 予習：博物館資料保存論で学習したすべての範囲を教科書で確認する 授業：博物館資料保存論で学習した内容の要点整理 復習：博物館資料保存論で学習した内容についてノートに要点を整理する								
授業開始前学習	日頃から博物館に出向き、展示や諸活動を体験するなどして博物館・学芸員の仕事に興味を持つようにする。また展示を観覧するだけでなく、各館が抱える問題点など課題をみつける視点をもつことも大事である。							
授業内課題のフィードバックの方法	提出課題に対しては翌週以降に全体講評やコメントを行い、かつ必要に応じて個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版）							
参考書								
評価の基準と方法	授業内試験・レポート（70%）、課題等（30%）							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	◎	△
関連科目	「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館展示論」「博物館教育論」「博物館情報・メディア論」「博物館実習」が文部科学省令必修科目として相互に関連する。							
その他	1 年次 4 月から学芸員養成課程に登録していることを履修の条件とする。条件に当てはまらない者がこの科目を履修登録した場合、本人の了解を得ずに登録が抹消されるので注意すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	博物館学芸員としての実務経験を活かし、博物館資料の特性や課題などについて講義をおこなう。							

科目名称	博物館経営論		
科目分類	110-411-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Museum Management Theory	授業区分	講義
科目責任者	岸川 雅範	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	岸川 雅範	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	本講義では、博物館経営の基盤となる博物館行政制度、博物館の財務、施設・設備、組織と職員等について学ぶとともに、博物館経営の使命と計画・評価、博物館の倫理と危機管理、マーケティングとパブリシティ活動、地域社会と博物館、他機関との連携等、博物館経営の実際について授業を行う。授業では感染症に対する安全性が確保できる場合に限り、ディスカッションを行う。		
到達目標	博物館の組織形態と活動面における適切な管理・運営方法について、具体的な事例を通して学び、博物館経営（ミュージアム・マネージメント）に関する基礎的な能力を身に付ける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：博物館経営の意義について教科書で調べる 授業：博物館経営の意義（教科書 56 頁から 58 頁） 復習：博物館経営の意義についてノートに要点を整理する</p> <p>【第2回】 予習：博物館運営方法の制度的な変化について教科書で調べる 授業：博物館運営方法の制度的な変化（教科書 58 頁から 61 頁） 復習：博物館運営方法の制度的な変化についてノートに要点を整理する</p> <p>【第3回】 予習：ミュージアム・マーケティングと博物館評価について教科書で調べる 授業：ミュージアム・マーケティングと博物館評価（教科書 61 頁から 63 頁） 復習：ミュージアム・マーケティングと博物館評価についてノートに要点を整理する</p> <p>【第4回】 予習：博物館の法と制度について教科書で調べる 授業：博物館の法と制度（教科書 64 頁から 66 頁） 復習：博物館の法と制度についてノートに要点を整理する</p> <p>【第5回】 予習：国・地方自治体の博物館行政について教科書で調べる 授業：国・地方自治体の博物館行政（教科書 66 頁から 69 頁） 復習：国・地方自治体の博物館行政についてノートに要点を整理する</p> <p>【第6回】 予習：博物館の運営組織について教科書で調べる 授業：博物館の運営組織（教科書 69 頁から 71 頁） 復習：博物館の運営組織についてノートに要点を整理する</p> <p>【第7回】 予習：博物館の建築と設備について教科書で調べる 授業：博物館の建築と設備（教科書 72 頁から 74 頁） 復習：博物館の建築と設備についてノートに要点を整理する</p> <p>【第8回】 予習：博物館の管理体制について教科書で調べる 授業：博物館の管理体制（教科書 74 頁から 75 頁） 復習：博物館の管理体制についてノートに要点を整理する</p> <p>【第9回】 予習：博物館の広報活動について教科書で調べる 授業：博物館の広報活動（教科書 76 頁から 78 頁） 復習：博物館の広報活動についてノートに要点を整理する</p> <p>【第10回】 予習：博物館の学習支援について教科書で調べる 授業：博物館の学習支援（教科書 78 頁から 80 頁） 復習：博物館の学習支援についてノートに要点を整理する</p> <p>【第11回】 予習：博物館のネットワーク活動について教科書で調べる 授業：博物館のネットワーク活動（教科書 80 頁から 82 頁） 復習：博物館のネットワーク活動についてノートに要点を整理する</p> <p>【第12回】 予習：博物館のホスピタリティー・サービスについて教科書で調べる 授業：博物館のホスピタリティー・サービス（教科書 82 頁から 83 頁） 復習：博物館のホスピタリティー・サービスについてノートに要点を整理する</p> <p>【第13回】</p>			

予習：博物館経営の実際について教科書で調べる 授業：博物館経営の実際（教科書 84 頁から 87 頁） 復習：博物館経営の実際についてノートに要点を整理する 【第 14 回】 予習：博物館経営の課題について教科書で調べる 授業：博物館経営の課題（教科書 87 頁から 91 頁）（課題解決型学習） 復習：博物館経営の課題についてノートに要点を整理する 【第 15 回】 予習：博物館経営論で学習したすべての範囲を教科書で確認する 授業：博物館経営論で学習した内容の要点整理 復習：博物館経営論で学習した内容の要点をノートに整理する								
授業開始前学習	普段からできる限り多くの博物館を訪れることが望ましい。また、文部科学省令必修科目共通テキストをあらかじめ読んでおく。							
授業内課題のフィードバックの方法	提出課題は、翌週以降に全体の講評や必要なコメントを行うとともに、個別の質問にも回答する。							
テキスト・教材	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版）							
参考書	参考書は、授業の中で随時紹介する。							
評価の基準と方法	授業内試験・レポート（70%）、課題等（30%）							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成	自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成	社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成	文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	◎	△
関連科目	「博物館概論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」「博物館情報・メディア論」「博物館実習」が文部科学省令必修科目として相互に関連する。							
その他	1 年次 4 月から学芸員養成課程に登録していることを履修の条件とする。条件に当てはまらない者がこの科目を履修登録した場合、本人の了解を得ずに登録が抹消されるので注意すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	博物館（社内内の博物館）の実務経験あり。博物館経営の講義を行う。							

科目名称	博物館教育論		
科目分類	110-411-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Museum Education Theory	授業区分	講義
科目責任者	山口 和美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山口 和美	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	本講義では、生涯教育の場、人材養成の場、地域教育の場、文化情報リテラシー教育の場としての博物館の意義・理念や、博物館教育の方針・評価について学ぶとともに、博物館の利用実態と学びの特性、博物館教育の実践について、具体的な事例をあげながら授業を行う。授業では課題解決型学習を行う。		
到達目標	博物館における教育活動の重要性を学び、博物館の教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的な能力を身に付ける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：近代教育史における博物館の教育的役割について教科書で調べる 授業：近代教育史における博物館の教育的役割（教科書 272 頁から 274 頁） 復習：近代教育史における博物館の教育的役割についてノートに要点を整理する</p> <p>【第2回】 予習：世界水準の博物館教育について教科書で調べる 授業：世界水準の博物館教育（教科書 275 頁から 277 頁） 復習：世界水準の博物館教育についてノートに要点を整理する</p> <p>【第3回】 予習：学芸員の教育的役割について教科書で調べる 授業：学芸員の教育的役割（教科書 277 頁から 278 頁） 復習：学芸員の教育的役割についてノートに要点を整理する</p> <p>【第4回】 予習：ボランティアの養成について教科書で調べる 授業：ボランティアの養成（教科書 279 頁から 280 頁） 復習：ボランティアの養成についてノートに要点を整理する</p> <p>【第5回】 予習：博学連携について教科書で調べる 授業：博物館教育の目的 1 博学連携（教科書 281 頁から 283 頁） 復習：博学連携についてノートに要点を整理する</p> <p>【第6回】 予習：生涯学習について教科書で調べる 授業：博物館教育の目的 2 生涯学習（教科書 283 頁から 284 頁） 復習：生涯学習についてノートに要点を整理する</p> <p>【第7回】 予習：展示と展示解説について教科書で調べる 授業：博物館教育の方法 1 展示と展示解説（教科書 285 頁から 286 頁） 復習：展示と展示解説についてノートに要点を整理する</p> <p>【第8回】 予習：ワークショップについて教科書で調べる 授業：博物館教育の方法 2 ワークショップ（教科書 287 頁から 288 頁）（課題解決型学習） 復習：ワークショップについてノートに要点を整理する</p> <p>【第9回】 予習：ハンズ・オンについて教科書で調べる 授業：博物館教育の方法 3 ハンズ・オン（教科書 288 頁から 290 頁）（課題解決型学習） 復習：ハンズ・オンについてノートに要点を整理する</p> <p>【第10回】 予習：アウトリーチについて教科書で調べる 授業：博物館教育の方法 4 アウトリーチ（教科書 290 頁から 292 頁）（課題解決型学習） 復習：アウトリーチについてノートに要点を整理する</p> <p>【第11回】 予習：子どものための博物館について教科書で調べる 授業：子どものための博物館（教科書 293 頁から 296 頁） 復習：子どものための博物館についてノートに要点を整理する</p> <p>【第12回】 予習：子どものための展覧会について教科書で調べる 授業：子どものための展覧会（教科書 302 頁から 305 頁） 復習：子どものための展覧会についてノートに要点を整理する</p> <p>【第13回】</p>			

<p>予習：教育目標と計画・評価について教科書で調べる 授業：教育目標と計画・評価（教科書 306 頁から 308 頁） 復習：教育目標と計画・評価についてノートに要点を整理する 【第 14 回】 予習：博物館教育の課題と展望について教科書で調べる 授業：博物館教育の課題と展望（教科書 309 頁から 311 頁） 復習：博物館教育の課題と展望についてノートに要点を整理する 【第 15 回】 予習：博物館教育論で学習したすべての範囲を教科書で確認する 授業：博物館教育論で学習した内容の要点整理 復習：博物館教育論で学習した内容の要点をノートに整理する</p>								
授業開始前学習	普段からできる限り多くの博物館を訪れることが望ましい。また、文部科学省令必修科目共通テキストをあらかじめ読んでおく。							
授業内課題の フィードバックの方法	提出課題は、翌週以降に全体の講評や必要なコメントを行うとともに、個別の質問にも回答する。							
テキスト・教材	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版）							
参考書								
評価の基準と方法	授業内試験・レポート（70%）、課題等（30%）							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成	自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成	社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成			文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	◎	△
関連科目	「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館情報・メディア論」「博物館実習」が文部科学省令必修科目として相互に関連する。							
その他	1 年次 4 月から学芸員養成課程に登録していることを履修の条件とする。条件に当てはまらない者がこの科目を履修登録した場合、本人の了解を得ずに登録が抹消されるので注意すること。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	博物館の実務経験あり。博物館の教育活動などを講義する。							

科目名称	博物館情報・メディア論		
科目分類	110-411-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Museum Information and Media Theory	授業区分	講義
科目責任者	山口 和美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山口 和美	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	本講義では、博物館における情報・メディアの歴史と意義、博物館活動と情報ネット化の現状を踏まえ、博物館資料の情報化（データベースの作成、マルチメディアの活用等）やデジタル情報発信の基本を学ぶとともに、著作権や個人情報等、博物館における知的財産の扱いについて授業を行う。		
到達目標	博物館における情報の意義と活用方法、情報発信の課題等について学び、博物館における情報の提供と活用に関する基礎的な能力を身に付ける。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：デジタルアーカイブの構築について教科書で調べる 授業：デジタルアーカイブの構築（教科書 234 頁から 235 頁） 復習：デジタルアーカイブの構築についてノートに要点を整理する</p> <p>【第2回】 予習：多様な博物館資料と情報について教科書で調べる 授業：多様な博物館資料と情報（教科書 235 頁から 237 頁） 復習：多様な博物館資料と情報についてノートに要点を整理する</p> <p>【第3回】 予習：整備された情報と活用手段について教科書で調べる 授業：整備された情報と活用手段（教科書 237 頁から 239 頁） 復習：整備された情報と活用手段についてノートに要点を整理する</p> <p>【第4回】 予習：マルチメディアと博物館について教科書で調べる 授業：マルチメディアと博物館（教科書 239 頁から 241 頁） 復習：マルチメディアと博物館についてノートに要点を整理する</p> <p>【第5回】 予習：管理情報と研究情報について教科書で調べる 授業：管理情報と研究情報（教科書 241 頁から 242 頁） 復習：管理情報と研究情報についてノートに要点を整理する</p> <p>【第6回】 予習：博物館資料のドキュメンテーションについて教科書で調べる 授業：博物館資料のドキュメンテーション（教科書 243 頁から 245 頁） 復習：博物館資料のドキュメンテーションについてノートに要点を整理する</p> <p>【第7回】 予習：博物館資料とデータベースについて教科書で調べる 授業：博物館資料とデータベース（教科書 246 頁から 248 頁） 復習：博物館資料とデータベースについてノートに要点を整理する</p> <p>【第8回】 予習：情報伝達手段としてのメディア媒体について教科書で調べる 授業：情報伝達手段としてのメディア媒体（教科書 249 頁から 250 頁） 復習：情報伝達手段としてのメディア媒体についてノートに要点を整理する</p> <p>【第9回】 予習：博物館における情報展示について教科書で調べる 授業：博物館における情報展示（教科書 251 頁から 254 頁） 復習：博物館における情報展示についてノートに要点を整理する</p> <p>【第10回】 予習：博物館外への情報サービスの実際について教科書で調べる 授業：博物館外への情報サービスの実際（教科書 254 頁から 256 頁） 復習：博物館外への情報サービスの実際についてノートに要点を整理する</p> <p>【第11回】 予習：博物館における情報公開と個人情報の保護について教科書で調べる 授業：博物館における情報公開と個人情報の保護（教科書 257 頁から 260 頁） 復習：博物館における情報公開と個人情報の保護についてノートに要点を整理する</p> <p>【第12回】 予習：博物館の展示情報技術について教科書で調べる 授業：博物館の展示情報技術（教科書 260 頁から 263 頁） 復習：博物館の展示情報技術についてノートに要点を整理する</p> <p>【第13回】</p>			

予習：博物館と知的財産権について教科書で調べる 授業：博物館と知的財産権（教科書 263 頁から 268 頁） 復習：博物館と知的財産権についてノートに要点を整理する 【第 14 回】 予習：博物館情報・メディアの今後の課題と展望について教科書で調べる 授業：博物館情報・メディアの今後の課題と展望（教科書 269 頁から 270 頁） 復習：博物館情報・メディアの今後の課題と展望についてノートに要点を整理する 【第 15 回】 予習：博物館情報・メディア論で学習したすべての範囲を教科書で確認する 授業：博物館情報・メディア論で学習した内容の要点整理 復習：博物館情報・メディア論で学習した内容の要点をノートに整理する								
授業開始前学習	普段からできる限り多くの博物館を訪れることが望ましい。また、文部科学省令必修科目共通テキストをあらかじめ読んでおく。							
授業内課題の フィードバックの方法	提出課題は、翌週以降に全体の講評や必要なコメントを行うとともに、個別の質問にも回答する。							
テキスト・教材	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版）							
参考書								
評価の基準と方法	授業内試験・レポート（70%）、課題等（30%）							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成	自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成	社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成	文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	◎	△
関連科目	「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」「博物館実習」が文部科学省令必修科目として相互に関連する。							
その他	1 年次 4 月から学芸員養成課程に登録していることを履修の条件とする。条件に当てはまらない者がこの科目を履修登録した場合、本人の了解を得ずに登録が抹消されるので注意すること。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	博物館の実務経験あり。博物館資料の情報化・デジタル情報発信などを講義する。							

科目名称	☆博物館実習 A (見学実習) / 博物館実習 A		
科目分類	110-411-22 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Museum Training A (Tour training)	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	下川 雅弘	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	下川 雅弘	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00~14:30 水曜日 13:00~14:30 後期 月曜日 13:00~14:30 水曜日 13:00~14:30	研究室	10-706
授業概要	本実習(見学実習)には、教員が引率するものと、学生が単独で訪れるものがある。どちらの見学でも、博物館ごとに特定のテーマ(展示物の配置、照明と採光、展示資料の解説等)を設定したレポートを課す。見学に訪れた博物館の学芸員等から直接話を聞くことにより、学芸員の仕事とはどのようなものかについて考える。授業はフィールドワークを中心に行う。		
到達目標	博物館の実態や展示の仕方を学ぶという観点から、さまざまな博物館を見学し、他の博物館に関する科目で修得した知識について、さらに理解を深めることができる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
<p>【第1回】 予習：見学予定博物館の情報収集 授業：公立(直営型)の地域博物館(歴史・民俗・考古系)の見学事前学習 復習：見学予定博物館情報の整理</p> <p>【第2回】 予習：見学予定博物館情報の確認 授業：公立(直営型)の地域博物館(歴史・民俗・考古系)の見学(フィールドワーク) 復習：見学した博物館での情報収集</p> <p>【第3回】 予習：博物館で収集した情報の整理 授業：公立(直営型)の地域博物館(歴史・民俗・考古系)の情報確認 復習：見学した博物館のレポート執筆</p> <p>【第4回】 予習：見学予定博物館の情報収集 授業：公立(公設民営型)の地域博物館(歴史・民俗・考古系)の見学事前学習 復習：見学予定博物館情報の整理</p> <p>【第5回】 予習：見学予定博物館情報の確認 授業：公立(公設民営型)の地域博物館(歴史・民俗・考古系)の見学(フィールドワーク) 復習：見学した博物館での情報収集</p> <p>【第6回】 予習：博物館で収集した情報の整理 授業：公立(公設民営型)の地域博物館(歴史・民俗・考古系)の情報確認 復習：見学した博物館のレポート執筆</p> <p>【第7回】 予習：見学予定博物館の情報収集 授業：テーマ館または文学館の見学事前学習 復習：見学予定博物館情報の整理</p> <p>【第8回】 予習：見学予定博物館情報の確認 授業：テーマ館または文学館の見学(フィールドワーク) 復習：見学した博物館での情報収集</p> <p>【第9回】 予習：博物館で収集した情報の整理 授業：見学したテーマ館または文学館の情報確認 復習：見学した博物館のレポート執筆</p> <p>【第10回】 予習：見学予定博物館の情報収集 授業：寺社宝物館の見学事前学習 復習：見学予定博物館情報の整理</p> <p>【第11回】 予習：見学予定博物館情報の確認 授業：寺社宝物館の見学(フィールドワーク) 復習：見学した博物館での情報収集</p> <p>【第12回】 予習：博物館で収集した情報の整理 授業：見学した寺社宝物館の情報確認 復習：見学した博物館のレポート執筆</p> <p>【第13回】</p>			

予習：見学予定博物館の情報収集 授業：大学博物館の見学事前学習 復習：見学予定博物館情報の整理 【第14回】 予習：見学予定博物館情報の確認 授業：大学博物館の見学（フィールドワーク） 復習：見学した博物館での情報収集 【第15回】 予習：博物館で収集した情報の整理 授業：見学した大学博物館の情報確認 復習：見学した博物館のレポート執筆								
授業開始前学習	東京近郊や実家の近くにどのような博物館があるのか調べておくとともに、普段からできる限り多くの博物館を訪れ、理想的な博物館とはどのようなものか、自分なりの考えをまとめておくことが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法	レポート課題については、翌週以降に全体の講評や必要なコメントを行うとともに、個別の質問にも回答する。							
テキスト・教材	駒沢女子大学講義ノートシリーズ『博物館実習』							
参考書								
評価の基準と方法	事前学習課題40%、レポート30%、テスト30%で評価する。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成	自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成	社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成	文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△			○	◎	◎
関連科目	「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」「博物館情報・メディア論」が文部科学省令必修科目として相互に関連する。							
その他	見学実習のうち1～2回程度を、教員が引率する正課学外活動として実施することを予定している（交通費は自己負担）。1年次4月から学芸員養成課程に登録していることを履修の条件とする。条件に当てはまらない者がこの科目を履修登録した場合、本人の了解を得ずに登録が抹消されるので注意すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間15時間（1時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容	自治体史編纂の実務経験あり。博物館の見学実習のための指導を行う。							

科目名称	☆博物館実習 B (実務実習) / 博物館実習 B		
科目分類	110-411-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Museum Training B (Practical training)	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	山口 和美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山口 和美	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	本実習（実務実習）では、まず館園実習に向けた心構えとして、資料の取り扱いに関する注意点を十分理解するとともに、学内における事前の訓練として、博物館の資料や展示物を実際に扱う際に必要な技術や方法論を学ぶ。授業は実習を中心に行う。		
到達目標	館園実習に向けて、博物館等の資料の取り扱い、収集・整理・保存・分類等の方法、調査研究の手法等を理解できる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：書籍・典籍・古文書資料について調べる 授業：資料の取り扱い 1 書籍・典籍・古文書資料の基礎知識 復習：書籍・典籍・古文書資料の方法について実習ノートにまとめる</p> <p>【第 2 回】 予習：書籍・典籍・古文書資料（卷子装、折本装、冊子装等）の取り扱いについて調べる 授業：資料の取り扱い 2 書籍・典籍・古文書資料（卷子装、折本装、冊子装等）の取り扱い（実習） 復習：書籍・典籍・古文書資料（卷子装、折本装、冊子装等）の取り扱いの方法について実習ノートにまとめる</p> <p>【第 3 回】 予習：美術工芸資料について調べる 授業：資料の取り扱い 3 美術工芸資料の基礎知識 復習：美術工芸資料について実習ノートにまとめる</p> <p>【第 4 回】 予習：美術資料（軸装等）の取り扱いについて調べる 授業：資料の取り扱い 4 美術資料（軸装等）の取り扱い（実習） 復習：美術資料（軸装等）の取り扱いの方法について実習ノートにまとめる</p> <p>【第 5 回】 予習：古文書等の調査カード作成と保管について調べる 授業：資料の記録化 1 古文書等の調査カード作成と保管（実習） 復習：古文書等の調査カード作成と保管の方法について実習ノートにまとめる</p> <p>【第 6 回】 予習：古文書等の調査カード作成と保管について調べる 授業：資料の記録化 2 古文書等の調査カード作成と保管（実習） 復習：古文書等の調査カード作成と保管の方法について実習ノートにまとめる</p> <p>【第 7 回】 予習：古文書等の調査カード作成と保管について調べる 授業：資料の記録化 3 古文書等の調査カード作成と保管（実習） 復習：古文書等の調査カード作成と保管の方法について実習ノートにまとめる</p> <p>【第 8 回】 予習：古文書等の調査カード作成と保管について調べる 授業：資料の記録化 4 古文書等の調査カード作成と保管（実習） 復習：古文書等の調査カード作成と保管の方法について実習ノートにまとめる</p> <p>【第 9 回】 予習：古文書等の調査カード作成と保管について調べる 授業：資料の記録化 5 古文書等の調査カード作成と保管（実習） 復習：古文書等の調査カード作成と保管の方法について実習ノートにまとめる</p> <p>【第 10 回】 予習：古文書等の調査カード作成と保管について調べる 授業：資料の記録化 6 古文書等の調査カード作成と保管（実習） 復習：古文書等の調査カード作成と保管の方法について実習ノートにまとめる</p> <p>【第 11 回】 予習：古文書等の調査カード作成と保管について調べる 授業：資料の記録化 7 古文書等の調査カード作成と保管（実習） 復習：古文書等の調査カード作成と保管の方法について実習ノートにまとめる</p> <p>【第 12 回】 予習：古文書等の調査カード作成と保管について調べる 授業：資料の記録化 8 古文書等の調査カード作成と保管（実習） 復習：古文書等の調査カード作成と保管の方法について実習ノートにまとめる</p> <p>【第 13 回】</p>			

<p>予習：カメラ、露出計の使い方とライティングについて調べる 授業：資料の記録化 9 カメラ、露出計の使い方とライティング（実習） 復習：カメラ、露出計の使い方とライティングの方法について実習ノートにまとめる 【第 14 回】 予習：平面物（書籍・典籍・古文書資料）の屋内撮影について調べる 授業：資料の記録化 10 平面物（書籍・典籍・古文書資料）の屋内撮影（実習） 復習：平面物（書籍・典籍・古文書資料）の屋内撮影の方法について実習ノートにまとめる 【第 15 回】 予習：立体物（美術工芸資料）の屋内撮影について調べる 授業：資料の記録化 11 立体物（美術工芸資料）の屋内撮影（実習） 復習：立体物（美術工芸資料）の屋内撮影の方法について実習ノートにまとめる</p>								
授業開始前学習	普段からできる限り多くの博物館を訪れることが望ましい。また、文部科学省令必修科目共通テキストを復習しておく。							
授業内課題の フィードバックの方法	提出課題は、翌週以降に全体の講評や必要なコメントを行うとともに、個別の質問にも回答する。							
テキスト・教材	駒沢女子大学講義ノートシリーズ『博物館実習』							
参考書								
評価の基準と方法	平常点 4 0 %、博物館実習日誌・実習ノート 3 0 %、事後課題レポート 3 0 % で評価する。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成	自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成	社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成	文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△			○	◎	◎
関連科目	「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」「博物館情報・メディア論」が文部科学省令必修科目として相互に関連する。							
その他	1 年次 4 月から学芸員養成課程に登録していることを履修の条件とする。条件に当てはまらない者がこの科目を履修登録した場合、本人の了解を得ずに登録が抹消されるので注意すること。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	博物館の実務経験あり。博物館の実務等を講義する。							

科目名称	☆博物館実習 C (館園実習) / 博物館実習 C							
科目分類	110-411-24 (J)			単位数	履修ガイド参照			
英文名称	Museum Training C (On-site training)			授業区分	演習・実習・実技			
科目責任者	下川 雅弘			必修・選択	履修ガイド参照			
担当教員	下川 雅弘			開講時期	履修ガイド参照			
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00~14:30 水曜日 13:00~14:30 後期 月曜日 13:00~14:30 水曜日 13:00~14:30			研究室	10-706			
授業概要	本実習 (館園実習) では、実際の博物館において、各博物館が定めた期間、資料の収集・整理・保存・調査研究・展示普及等の実務を体験する。事前には実習に当たっての心構え等についての指導を、事後には実習の反省・自己評価等をもとに、課題を解決するための指導を、それぞれ実施する。授業は実習を中心に行う。							
到達目標	1、博物館の運営理念や業務の流れについて理解を深めることができる。 2、学芸員としての責任感や心構えを身に付ける。							
アクティブ・ラーニング型授業	有							
各回の授業内容と課題学習 (予習・復習)								
<p>1) 実習先を検討する。 2) 大学で事前指導を受ける。 実習に当たっての心構えを学ぶ。 実習先となる博物館の概要 (歴史、理念、運営方針等) を調べる。 3) 実習開始 (本学の博物館での実習の場合) 収集された博物館資料の整理保存・調査研究に関する実務 ・所蔵資料の観察、計測 ・所蔵資料の写真撮影 ・資料台帳の作成、データ入力 ・所蔵資料の保管 ・所蔵資料の調査研究の方法論 所蔵資料の展示普及に関する実務 ・提示された展示企画書の分析と考察 ・展示企画書に沿ったパネル・キャプション類作成等の実務 ・展示企画書に沿った列品・ライティング等の実務 ・展示シート作成等の実務 ・展示解説等の実務 4) 実習終了 実習日誌を記載し、提出する。 5) 大学で事後指導を受ける。 大学での実習反省会・報告会に参加する。</p>								
授業開始前学習	普段からできる限り多くの博物館を訪れることが望ましい。また、文部科学省令必修科目共通テキストを復習しておく。							
授業内課題のフィードバックの方法	提出課題は、翌週以降に全体の講評や必要なコメントを行うとともに、個別の質問にも回答する。実習ノートについては、提出後に所見等を記載し、返却する。							
テキスト・教材	駒沢女子大学講義ノートシリーズ『博物館実習』							
参考書								
評価の基準と方法	博物館実習日誌・実習ノート・実習先からの報告書等 70%、事後課題レポート 30% で評価する。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△			○	◎	◎
関連科目	「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」「博物館情報・メディア論」が文部科学省令必修科目として相互に関連する。							
その他	①博物館実習 C (館園実習) を除く省令必修科目の単位がすべて修得済みであること、②博物館実習 C (館園実習) を除く省令必修科目の GPA の平均が 2.0 以上であること、③すべてのガイダンスに遅刻なく出席していること、④実習費がかかる							

	博物館で実習を受ける場合、定められた期間内に受講料（おおむね 10,000 円前後）を納入すること、以上①～④のすべてを満たしていることを、履修要件とする。
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした 教育内容	自治体史編纂の実務経験あり。博物館での館園実習のための指導、講義を行う。

科目名称	日本美術史		
科目分類	100-121-11 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese Art History	授業区分	講義
科目責任者	遠山 元浩	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	遠山 元浩	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	日本に於ける美術の流れを追えば、日本という文化の独自性が見えてくる。信仰や各種儀式から生まれた美、装飾性の多様さ、建築や工芸に見るデザインなど、日本人としての意識を、代表的な日本美術の作品を用いて解説しつつ、日本美術を紐解いていく。		
到達目標	まず、日本美術の変遷を時代ごとに理解する。そして、時代ごとに取り上げた美術品の分野、形態、その特徴や技法などを己の知識として身につける。併せて解説に使用した作品の意味や本質を理解する。日本美術の基礎を理解した上で、自分の中にある「日本の美」とは何なのか？を、導き出す事ができるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：関心がある日本美術とは何か考察する。 授業：ガイダンス 日本美術とは 復習：日本美術にどのような特徴が顕著かまとめる。</p> <p>【第2回】 予習：美術の種類にはどんなものがあるのか確認する。 授業：美術品の分類と文化財 復習：美術の分類特徴をまとめる。</p> <p>【第3回】 予習：縄文・弥生の美術についてどんなものがあるのか確認する。 授業：縄文・弥生の美術 復習：縄文・弥生の美術の特徴をまとめる。</p> <p>【第4回】 予習：古代の美術についてどんなものがあるのか確認する。 授業：弥生・古墳・古代の美術 復習：弥生・古墳・古代の美術の特徴をまとめる。</p> <p>【第5回】 予習：飛鳥時代の美術についてどんなものがあるのか確認する。 授業：飛鳥時代の美術（仏教美術） 復習：飛鳥時代の美術の特徴をまとめる。</p> <p>【第6回】 予習：飛鳥から奈良の美術についてどんなものがあるのか確認する。 授業：飛鳥から奈良時代の美術 復習：飛鳥から奈良の美術の特徴をまとめる。</p> <p>【第7回】 予習：奈良から平安の歴史についてどんなものがあるのか確認する。 授業：奈良から平安時代の美術 復習：奈良から平安の美術の特徴をまとめる</p> <p>【第8回】 予習：平安から鎌倉についてどんなものがあるのか確認する。 授業：平安から鎌倉時代の美術（浄土美術） 復習：平安から鎌倉の美術の特徴をまとめる</p> <p>【第9回】 予習：鎌倉時代の美術についてどんなものがあるのか確認する。 授業：鎌倉時代の美術（やまと絵） 復習：鎌倉時代の美術の特徴をまとめる。</p> <p>【第10回】 予習：鎌倉時代の美術についてどんなものがあるのか確認する。 授業：鎌倉から室町時代の美術（垂迹絵画） 復習：鎌倉から室町時代の美術の特徴をまとめる。</p> <p>【第11回】 予習：中近世移行期についての歴史を確認する。 授業：中近世移行期の美術 復習：中近世移行期の美術の特徴を整理する。</p> <p>【第12回】 予習：江戸時代の歴史を確認する。 授業：江戸時代の美術（絵画） 復習：江戸時代の美術の特徴をまとめる。</p>			

<p>【第13回】 予習：美本美術の技法についてどんなものがあるのか確認する。 授業：日本美術の技術（絵画・工芸・彫刻） 復習：江戸の工芸彫刻の特徴をまとめる。</p> <p>【第14回】 予習：近世から近代の歴史について確認する。 授業：江戸から明治時代の美術 復習：江戸から明治の美術の特徴をまとめる</p> <p>【第15回】 予習：各時代の美術の特徴についてどんなものがあるのか確認する。 授業：学びの総括 復習：日本の美術の特徴をまとめる。</p>								
授業開始前学習	授業テキストや美術全集などなるべく多くの日本美術作品を見ておくこと							
授業内課題の フィードバックの方法	授業中必要と思われるタイミングに質疑応答時間を設ける 随時その内容に対して研究意欲を掘り下げられるよう、参考文献や実際の史料画像などを提示する							
テキスト・教材	『日本美術史 JAPANESE ART HISTORY』(美術出版ライブラリー 歴史編) 山下裕二・高岸輝（監修）美術出版社 発行 これ以外に適宜プリント資料等を配付する事もある。							
参考書	講義中に参考資料等を紹介、配付資料には参考文献等を掲載する。							
評価の基準と方法	授業の平常点（30%）、課題レポート（70%）で総合的に評価する。 課題レポートは、指定された方法のみで受け付ける。 提出方法などの詳細は、授業終盤に授業の中で提示する。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性を身につける		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性を身につける		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力を身につける		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力を身につける	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目								
その他	各回パワーポイントを使用している授業となるが、授業中に用いた美術作品や史料等は、図版集などを見て毎回確認をすること。また専門用語はその都度解説する。余裕のある時に、博物館・美術館・寺社仏閣などを訪れ、美術に接する機会を増やす努力をして欲しい。授業内容によっては必要と思われる最新史料の紹介、DVDや動画などを用いた視覚授業を実施することがあるので、予定がずれることも想定される。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	遊行寺宝物館の現役館長である。収蔵品は国宝『一遍聖絵』重要文化財『後醍醐天皇御像』など多数。専門は日本美術。特に日本仏教美術中の時宗美術と得意とする。保存担当学芸員の資格を有して文化財保護活動にも従事する。これらの経験を活かして日本美術史を紐解いて行く。							

科目名称	日本文化史 I		
科目分類	111-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	History of Japanese Culture I	授業区分	講義
科目責任者	長谷川 幸一	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	長谷川 幸一	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	本講義は、日本の文化に関する歴史を総合的に学び、日本人の文化に対する価値観や個々の文化事象について基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、古代から近現代に至る文化史を学びつつ、それぞれの時代における文化的特色について考察する。		
到達目標	1.日本文化の歴史を理解できる。 2.日本文化の価値観や文化事象に関する知識を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：「文化」「文明」の語句を調べておく。 授業：文化・文明とは？ 復習：配付されたプリントを再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第 2 回】 予習：日本の地理・自然環境の特徴を調べる。 授業：日本文化の環境 復習：配付されたプリントを再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第 3 回】 予習：日本の神話を調べる。 授業：日本神話 復習：配付されたプリントを再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第 4 回】 予習：身近にある神社を調べ、祭神・神社の沿革・祭礼を調べる。 授業：神社の発生とその展開 復習：配付されたプリントを再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第 5 回】 予習：年中行事を調べる。 授業：年中行事 復習：配付されたプリントを再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第 6 回】 予習：十干十二支を調べる。 授業：暦 復習：配付されたプリントを再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第 7 回】 予習：古代の日本文化を調べる。 授業：古代の日本文化 復習：配付されたプリントを再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第 8 回】 予習：古代の日本文化の特色をまとめる。 授業：古代の日本文化の特色（グループワーク） 復習：配付されたプリントを再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第 9 回】 予習：中世の日本文化を調べる。 授業：中世の日本文化 復習：配付されたプリントを再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第 10 回】 予習：中世の日本文化の特色をまとめる。 授業：中世の日本文化の特色（グループワーク） 復習：配付されたプリントを再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第 11 回】 予習：近世の日本文化を調べる。 授業：近世の日本文化 復習：配付されたプリントを再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第 12 回】 予習：近世の日本文化の特色をまとめる。 授業：近世の日本文化の特色（グループワーク） 復習：配付されたプリントを再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第 13 回】</p>			

<p>予習：近代の日本文化を調べる。 授業：近代の日本文化 復習：配付されたプリントを再読し、授業内容の確認を行う。 【第14回】 予習：近代の日本文化の特色をまとめる。 授業：近代の日本文化の特色（グループワーク） 復習：配付されたプリントを再読し、授業内容の確認を行う。 【第15回】 予習：これまでの講義内容を復習しておくこと。 授業：レポート作成（課題解決型学習） 復習：この授業を通じて学んだことを総括する。</p>								
授業開始前学習	日本史、特に日本文化の流れについて把握しておくことが望ましい。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回リアクションペーパーを記入してもらい、適宜質問への回答や授業の補足を行う。							
テキスト・教材	講義時に適宜資料を配布する。							
参考書	大隅和雄『日本文化史講義』（吉川弘文館、2017年）。 この他、日本文化について取り上げた本があれば一読しておくことをすすめる。							
評価の基準と方法	平常点（リアクションペーパー）30%とレポートの成績70%で評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎	○	
関連科目								
その他	講義中で紹介する文献のうち、少なくとも一つは精読すること。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	寺史編纂や自治体の文化財取扱の実務経験あり。その経験を活かし、古代から近代までの日本文化の歴史を講義する。							

科目名称	日本文化史Ⅱ		
科目分類	111-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	History of Japanese Culture II	授業区分	講義
科目責任者	長谷川 幸一	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	長谷川 幸一	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	本講義は、日本の芸能の歴史に関する基礎知識を学びながら、日本文化における芸術と技芸を把握することを目的とする。具体的には、雅楽、能、浄瑠璃、歌舞伎を取り上げ解説する。必要に応じて映像や音楽の鑑賞を行い、芸能への理解を深める。芸能を鑑賞する授業では受講生から意見や感想を募り、日本文化について理解の共有を図ってきたい。		
到達目標	1. 伝統芸術の基本的な様式に関する基礎知識を身につける。 2. 日本人の精神性・道徳・美意識が、伝統芸術の中に、どのような形で表現されているかを理解できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：日本の伝統文化にはどのようなものがあるか調べる。 授業：日本の伝統文化・芸道 復習：配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第2回】 予習：雅楽の歴史を調べる。 授業：雅楽の伝来とその展開 復習：配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第3回】 予習：雅楽の曲目を調べる。 授業：雅楽鑑賞（グループワーク） 復習：配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第4回】 予習：能楽の起源を調べる。 授業：能楽の歴史 復習：配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第5回】 予習：能楽の「道成寺」のストーリーを理解しておくこと。 授業：能楽「道成寺」とは 復習：配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第6回】 予習：能楽の「道成寺」のストーリーを理解しておくこと。 授業：能楽「道成寺」（前半）観賞 復習：配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第7回】 予習：能楽の「道成寺」のストーリーを理解しておくこと。 授業：能楽「道成寺」（後半）観賞（グループワーク） 復習：配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第8回】 予習：三味線楽について理解しておくこと。 授業：三味線楽の歴史①発生と地歌 復習：配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第9回】 予習：浄瑠璃について理解しておくこと。 授業：三味線楽の歴史②浄瑠璃（グループワーク） 復習：配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第10回】 予習：人形浄瑠璃「日高川入相花王」のストーリーを理解しておくこと。 授業：人形浄瑠璃「日高川入相花王」鑑賞（グループワーク） 復習：配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第11回】 予習：歌舞伎の歴史について理解しておくこと。 授業：三味線楽の歴史③歌舞伎 復習：配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第12回】 予習：市川團十郎家について理解しておくこと。 授業：市川團十郎家の至芸 歌舞伎「勸進帳」鑑賞（グループワーク） 復習：配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。</p>			

<p>【第13回】 予習：歌舞伎「暫」のストーリーについて理解しておくこと。 授業：歌舞伎「暫」鑑賞（グループワーク） 復習：配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第14回】 予習：歌舞伎「京鹿子娘道成寺」のストーリーについて理解しておくこと。 授業：歌舞伎「京鹿子娘道成寺」鑑賞（グループワーク） 復習：配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第15回】 予習：これまでの講義内容を復習しておくこと。 授業：レポート作成（課題解決型学習） 復習：この授業を通じて学んだことを総括する。</p>								
授業開始前学習	伝統芸能に関する書籍や映像記録などに目を通しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	毎回リアクションペーパーを記入してもらい、適宜質問への回答や授業の補足を行う。							
テキスト・教材	適宜、資料を配付する。							
参考書	田中健次『図解日本音楽史 増補改訂版』（東京堂出版、2018年）。 その他、芸能について取り上げた本があれば一読しておくことをすすめる。							
評価の基準と方法	平常点 30%と試験の成績 70%で評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎	○	
関連科目								
その他	講義中で紹介する文献のうち、少なくとも一つは精読すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	寺史編纂や自治体の文化財取扱の実務経験あり。その経験を活かし、日本の伝統芸能の歴史などについて講義する。							

科目名称	☆地域文化概論		
科目分類	111-331-11 (2022年～入学者) (J) 111-331-12 (～2021年入学者) (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Survey of Regional Culture	授業区分	講義
科目責任者	下川 雅弘	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	下川 雅弘	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-706
授業概要	この授業では、おもに稲城市を事例として、地域文化の調べ方や史料の読み方について概説し、その調査、読解を行うための基礎知識を修得する。また、各自の地元を事例として、隠れた地域文化を発見し、その魅力を発表する。授業では課題解決型学習・発表・フィールドワークを行う。		
到達目標	1. 地域文化の調べ方を身に付けることができる。 2. 各地の地域文化の魅力を発見し、そこから日本文化の特徴を理解できる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスを読み、学修内容を確認する 授業：地域の文化を再発見し、日本の文化を考える（川崎市多摩区浅間神社の富士塚を事例に） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する</p> <p>【第2回】 予習：稲城市の歴史と文化のプリントを読んでおく 授業：稲城市の歴史と文化を概観する①（古代の窯跡と中世の城跡を中心に） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する</p> <p>【第3回】 予習：稲城市の歴史と文化のプリントを読んでおく 授業：稲城市の歴史と文化を概観する②（大丸用水と玉川焼を中心に） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する</p> <p>【第4回】 予習：稲城市の歴史と文化のプリントを読んでおく 授業：稲城市の歴史と文化を概観する③（梨づくり・多摩川の渡しと多摩ニュータウン開発を中心に） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する</p> <p>【第5回】 予習：史料の現代語訳課題をフォームで提出する 授業：『新編武蔵風土記稿』「矢野口村」由緒前半の読解（課題解決型学習） 復習：史料の考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第6回】 予習：史料の現代語訳課題をフォームで提出する 授業：『新編武蔵風土記稿』「矢野口村」由緒後半～大丸用水の読解（課題解決型学習） 復習：史料の考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第7回】 予習：史料の現代語訳課題をフォームで提出する 授業：『新編武蔵風土記稿』「矢野口村」穴澤天神社の読解（課題解決型学習） 復習：史料の考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第8回】 予習：史料の現代語訳課題をフォームで提出する 授業：『新編武蔵風土記稿』「矢野口村」威光寺～国安社の読解（課題解決型学習） 復習：史料の考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第9回】 予習：史料の現代語訳課題をフォームで提出する 授業：『新編武蔵風土記稿』「矢野口村」妙覚寺の読解（課題解決型学習） 復習：史料の考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第10回】 予習：地域文化レジュメ集を読んでおく 授業：地域文化レジュメ集を読む①（発表） 復習：発表にコメントを寄せる</p> <p>【第11回】 予習：地域文化レジュメ集を読んでおく 授業：地域文化レジュメ集を読む②（発表） 復習：発表にコメントを寄せる</p> <p>【第12回】 予習：地域文化レジュメ集を読んでおく 授業：地域文化レジュメ集を読む③（発表） 復習：発表にコメントを寄せる</p>			

<p>【第13回】 予習：地域文化レジュメ集を読んでおく 授業：地域文化レジュメ集を読む④（発表） 復習：発表にコメントを寄せる</p> <p>【第14回】 予習：地域文化レジュメ集を読んでおく 授業：地域文化レジュメ集を読む⑤（発表） 復習：発表にコメントを寄せる／ミニレポートをフォームで提出する</p> <p>【第15回】 予習：地域文化概論の学びを振り返る 授業：地域文化から考える日本の文化（課題解決型学習） 復習：地域文化概論の学びを総括する</p>								
授業開始前学習	各自の地元の歴史や文化に関する書籍（特に自治体史）の興味がある部分を読んでおくことが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法	予習・復習課題に対しては、次回の授業時に受講者からの回答を紹介し、コメント・講評を行う。発表に対しては、授業内で補足解説・コメントを行う。							
テキスト・教材	プリントを配付する。							
参考書	適宜、授業に沿って推薦図書を紹介する。 また、予習課題や発表の準備に際しては、以下の辞書を必ず参照すること。 『日本歴史地名大系』（平凡社）、『国史大辞典』（吉川弘文館）							
評価の基準と方法	予習復習課題70%、発表20%、ミニレポート10%で評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○		○	◎	◎		
関連科目								
その他	授業の進捗状況や受講者数などによって、内容を変更することがある。 この授業では、土曜日などに正課学外活動（輪読資料に関連する稲城市内の史跡見学等）を行う予定である。若干の交通費の負担が必要な場合がある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	自治体史編纂の実務経験あり。地域文化の調べ方や魅力などを講義する。							

科目名称	世界遺産研究		
科目分類	120-321-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	World Heritage Research	授業区分	講義
科目責任者	大室 聡志	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大室 聡志	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	「世界遺産とは、地球の品位を守るもの」として、人類が後世に残すべき人類共通の財産です。1978年に最初の世界遺産12件が「世界遺産リスト」に記載されて以来、2022年3月現在、1154件の世界遺産が登録されており、そのうち25件が日本の世界遺産です。講師は旅行会社に20年以上務め、個人的にも50カ国以上旅をし、世界各国の世界遺産を実際に見てきた経験があります。この授業では、これらの経験を活かし、世界遺産の歴史、意義、価値を考察し、文化や宗教の多様性や歴史の教訓を学ぶとともに、自然の恵みや伝統の重みについても触れていきます。		
到達目標	目標： ①日本の世界遺産の概要を説明できるようになる。 ②世界の主要な世界遺産の概要を説明できるようになる。 ③日本や世界の地理感覚（どのあたりにどの国・地域があるか）を身につける。 ④疑問点を考えながら発表を聞くことで、批判的思考力を身につける。 ⑤発表担当者は、「問い」を立て調査し、まとめる力を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>第1回 予習：訪れたことがある世界遺産を調査する。 授業：自分（学生本人）と世界遺産のつながり 復習：確認のクイズに答える。（小課題①）</p> <p>第2回 予習：知っている世界遺産をリストアップする。 授業：世界遺産の基礎知識 復習：確認のクイズに答える。（小課題②）</p> <p>第3回 予習：日本の世界遺産（文化遺産）について事前に調査する。 授業：日本の世界遺産（文化遺産） 復習：確認のクイズに答える。（小課題③）</p> <p>第4回 予習：日本の世界遺産（自然遺産）について事前に調査する。 授業：日本の世界遺産（自然遺産） 復習：確認のクイズに答える。（小課題④）</p> <p>第5回 予習：世界で最初の世界遺産について事前に調査する。 授業：世界で最初の世界遺産 復習：確認のクイズに答える。（小課題⑤）</p> <p>第6回 予習：古代文明に関する世界遺産を事前に調査する。 授業：人類の誕生と古代文明に関する世界遺産 復習：確認のクイズに答える。（小課題⑥）</p> <p>第7回 予習：アジアの世界遺産について事前に調査する。 授業：アジア世界の形成と宗教に関する世界遺産 復習：確認のクイズに答える。（小課題⑦）</p> <p>第8回 予習：中世ヨーロッパの世界遺産について事前に調査する。 授業：中世ヨーロッパとルネサンス、大航海時代に関する世界遺産 復習：確認のクイズに答える。（小課題⑧）</p> <p>第9回 予習：アメリカ、アフリカに関する世界遺産を事前に調査する。 授業：アメリカ、アフリカに関する世界遺産 復習：確認のクイズに答える。（小課題⑨）</p> <p>第10回 予習：オセアニアと東アジアに関する世界遺産を事前に調査する。 授業：オセアニアの文明と東アジアに関する世界遺産 復習：確認のクイズに答える。（小課題⑩）</p> <p>第11回 予習：近代文明に関する世界遺産を事前に調査する。 授業：近代国家の成立と近代文明に関する世界遺産 復習：確認のクイズに答える。（小課題⑪）</p>			

<p>第 12 回 予習：危機遺産について事前に調査する。 授業：テーマでみる世界遺産 復習：確認のクイズに答える。（小課題⑫）</p> <p>第 13 回 予習：世界の自然遺産について事前に調査する。 授業：世界の自然遺産 復習：確認のクイズに答える。（小課題⑬）</p> <p>第 14 回 予習：発表準備 授業：課題に対する学生発表 ※受講者が多い場合、発表を複数回に分けて行う場合がある。 復習：発表内容に対し、1 つ疑問点を見いだし、自分で調べ、記録する。（小課題⑭）</p> <p>第 15 回 予習：模擬試験に向けて復習 授業：授業内模擬試験（世界遺産検定 3 級レベル） 復習：観光の観点からこれまでに学んだ世界遺産を振り返る。</p>								
授業開始前学習	日頃から世界遺産や主要な観光地に関心を持つとともに、UNESCO の世界遺産リスト < http://whc.unesco.org/ja/list/ >を見ておく。 図書館にある世界遺産の DVD の視聴もお勧めする。							
授業内課題の フィードバックの方法	発表（要領は初回授業にて指示する）については、授業後に教員からのフィードバックを行う。 授業後の小課題は、次回の授業の冒頭でコメントする。							
テキスト・教材	『わくわく学ぶ世界遺産 300』-世界遺産検定 2 級公式テキスト-（発行：NPO 法人世界遺産アカデミー） ※世界遺産検定受験予定者のみ購入を推奨する。							
参考書	『世界遺産検定』公式過去問題集 3・4 級（発行：NPO 法人世界遺産アカデミー） 旅地図世界-世界の名所をめぐる誌上旅行-（発行：昭文社） 旅地図日本-全国の名所をめぐる誌上旅行-（発行：昭文社）							
評価の基準と方法	世界遺産についての発表と質疑応答（最大 20% *）、授業後の小課題(40%)、授業内模擬試験（世界遺産検定 3 級レベル）（40%）などを総合的に判断します。 * 発表を行わない人の成績は 80 点が上限になります。 * 世界遺産検定受験者はボーナス加点を行うので、受験証をご提示ください。 * 授業前に既に合格している方にもボーナス加点を行うので、合格証をご提示ください。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				△		◎	
関連科目	日本・世界の歴史、文化史、宗教史、地理学、芸術、自然、観光学などの知識が身に付けられる科目と関連しています。							
その他	この授業では、世界遺産「研究」をするのは受講生の皆さんです。 世界遺産についてはインターネットで様々な情報が入手可能です。以下のサイトなどを参考にしてください。 文化庁 HP < https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/sekai_isan/ichiran/ > 日本 の 世 界 遺 産 一 覧 < https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/sekai_isan/ichiran/pdf/20200806_01.pdf > 日 本 の 世 界 文 化 遺 産 地 図 < https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/sekai_isan/ichiran/pdf/93295501_01.pdf > UNESCO HP< http://whc.unesco.org/ja/list/ > 世界遺産オンラインガイド< https://worldheritagesite.xyz/ >							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	旅行会社エイチ・アイ・エスに勤務して 23 年。そのうち、海外駐在（ロシア）7 年の経験もあります。趣味も旅行で、5 大陸すべてを網羅し、訪問海外国数は 50 カ国を超えました。そこで見てきた世界遺産について理解を深め、世界遺産検定 1 級も取得しています。旅行会社のプロとして捉える「世界遺産」と、一人の旅好きとして捉える「世界遺産」の両方の視点で世界遺産について説明します。また、世界遺産検定取得者として、世界遺産検定資格取得を意識した解説を進めます。そして、「世界遺産」を切り口に受講生の国際感覚を養い、世界がより近く							

科目名称	☆ミュージアム研究／日本のミュージアム		
科目分類	120-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Museum Research／Museums in Japan	授業区分	講義
科目責任者	太田 英侖奈	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	太田 英侖奈	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	本講義は今日の日本におけるミュージアムへの理解を深めるべく、国内の様々なミュージアムについて幅広い知識を得られるよう設計されている。第 1、2 回を除き、毎回テーマに沿って国内から 3 館のミュージアムを取り上げ、沿革、展示内容や事業内容を解説する。必要に応じ、日本のミュージアムが抱える課題を指摘し、より良い展示や運営のあり方を考察する。		
到達目標	日本におけるミュージアムの成立過程と、今日存在する様々なミュージアムの種類を把握し、各ミュージアムの展示内容や事業内容を理解する。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：シラバスを通読し、授業内容を確認する。 授業：導入（ミュージアムとは何か、博物館法） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。</p> <p>【第 2 回】 予習：正倉院の沿革と所蔵品について調べる。 授業：日本におけるミュージアムの成り立ち（正倉院、ウィーン万博） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。</p> <p>【第 3 回】 予習：東京国立博物館の沿革と展示内容を調べる。 授業：総合的なミュージアム（東京国立博物館、九州国立博物館、インターメディアテック） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。</p> <p>【第 4 回】 予習：京都国立博物館の沿革と展示内容を調べる。 授業：日本・東洋美術のミュージアム（京都国立博物館、根津美術館、錦木清方記念美術館） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。</p> <p>【第 5 回】 予習：国立西洋美術館の沿革と展示内容を調べる。 授業：西洋・近代美術のミュージアム（国立西洋美術館、アーティゾン美術館、岡本太郎記念館） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。</p> <p>【第 6 回】 予習：国立歴史民俗博物館の沿革と展示内容を調べる。 授業：考古・歴史のミュージアム（国立歴史民俗博物館、かみつけの里博物館、熊本県立装飾古墳館） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。</p> <p>【第 7 回】 予習：名古屋科学館の沿革と展示内容を調べる。 授業：自然科学のミュージアム（名古屋科学館、地底の森ミュージアム、琵琶湖博物館） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。</p> <p>【第 8 回】 予習：鉄道博物館の沿革と展示内容を調べる。 授業：産業のミュージアム（鉄道博物館、富岡製糸場、世界のタイル博物館） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。</p> <p>【第 9 回】 予習：博物館明治村の沿革と展示内容を調べる。 授業：建築のミュージアム（博物館明治村、国立近現代建築資料館、建築倉庫） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。</p> <p>【第 10 回】 予習：日本近代文学館の沿革と展示内容を調べる。 授業：文学のミュージアム（日本近代文学館、源氏物語ミュージアム、三島由紀夫文学館） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。</p> <p>【第 11 回】 予習：鈴木大拙館の沿革と展示内容を調べる。 授業：思想・制度のミュージアム（鈴木大拙館、國學院大學博物館、憲政記念館） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。</p> <p>【第 12 回】 予習：民音音楽博物館の沿革と展示内容を調べる。 授業：音楽・演劇・映像のミュージアム（民音音楽博物館、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、国立映画アーカイブ） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。</p> <p>【第 13 回】</p>			

<p>予習：日本民藝館の沿革と展示内容を調べる。 授業：工芸・服飾のミュージアム（日本民藝館、文化学園服飾博物館、ポーラ文化研究所） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。 【第14回】 予習：国立民族学博物館の沿革と展示内容を調べる。 授業：文化人類系のミュージアム（国立民族学博物館、鳥羽市立海の博物館、国立アイヌ民族博物館） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。 【第15回】 予習：興味のあるミュージアムを見学し、プレゼンテーション（課題解決型学習）の下準備をする。 授業：自身が見学したミュージアムの展示上の工夫と、改善点をプレゼンテーションで提示する。※受講人数次第でプレゼンテーションからグループワークへの変更の可能性あり 復習：自身や他の受講者のプレゼンテーションを振り返り、今日の日本におけるミュージアムへの理解を深める。</p>								
授業開始前学習	「インターネットミュージアム」(https://www.museum.or.jp/)等、日本のミュージアムに関するポータルサイトを閲覧し、国内にどのようなミュージアムがあるかを把握する。その他、日本のミュージアムを取り扱った書籍や映像資料にて事前知識を得るのが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法	履修者は毎授業後に KOMAJO ポータル上でコメントを提出する。次回授業の冒頭にて、興味深いコメントや質問へのフィードバックを行う。							
テキスト・教材	適宜レジュメを配布する。							
参考書	必要に応じ、参考書を提示する。							
評価の基準と方法	毎授業後に提出するコメントの提出率及び内容と、第15回授業時に行うプレゼンテーション（受講人数次第ではグループワーク）の内容により評価する。配点（100点満点における）はコメント40点、プレゼンテーション60点とする。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	学芸員資格あり。また、独立行政法人の研究所にて文化財保護事業に携わる。本講義ではこれらの経験を活かし、日本のミュージアムの展示内容や事業内容を解説する。							

科目名称	☆西洋美術の旅／西洋美術の旅 I			
科目分類	120-331-12	単位数	履修ガイド参照	
英文名称	Western Art Journey／Western Art Journey I		授業区分	講義
科目責任者	太田 英伶奈	必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	太田 英伶奈	開講時期	履修ガイド参照	
オフィスアワー	-	研究室	-	
授業概要	古典ギリシア時代から第 2 次世界大戦後までの西洋美術の変遷を概観し、各時代の特徴を捉える。毎回ある時代（もしくは美術様式・運動）を取り上げ、主要な作例を通じて各時代の美術の特徴と背景にある歴史的事実や時代精神を考察する。多角的な視点から西洋美術の変遷を理解できるよう、講義で引用する作例は絵画・彫刻・工芸・建築の 4 分野に亘る。			
到達目標	古典ギリシア時代から第 2 次世界大戦後までの西洋美術が辿った足跡を大まかに把握し、各時代（もしくは美術様式・運動）に属する美術の特徴を理解する。			
アクティブ・ラーニング型授業	無			
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）				
<p>【第 1 回】 予習：シラバスを通読し、授業内容を確認する。 授業：導入、古典ギリシア、ヘレニズム美術 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。</p> <p>【第 2 回】 予習：エトルリア、ローマ美術の作例を調べる。 授業：エトルリア、ローマ美術 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。</p> <p>【第 3 回】 予習：古典末期、初期キリスト教美術の作例を調べる。 授業：古典末期、初期キリスト教美術 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。</p> <p>【第 4 回】 予習：初期中世美術の作例を調べる。 授業：初期中世美術 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。</p> <p>【第 5 回】 予習：ロマネスク美術の作例を調べる。 授業：ロマネスク美術 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。</p> <p>【第 6 回】 予習：ビザンティン美術の作例を調べる。 授業：ビザンティン美術 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。</p> <p>【第 7 回】 予習：ゴシック美術の作例を調べる。 授業：ゴシック美術 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。</p> <p>【第 8 回】 予習：イタリア・ルネサンス、マニエリスム美術の作例を調べる。 授業：イタリア・ルネサンス、マニエリスム美術 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。</p> <p>【第 9 回】 予習：北方ルネサンス美術の作例を調べる。 授業：北方ルネサンス美術 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。</p> <p>【第 10 回】 予習：バロック、ロココ美術の作例を調べる。 授業：バロック、ロココ美術 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。</p> <p>【第 11 回】 予習：新古典主義、ロマン主義の作例を調べる。 授業：18 世紀の美術（新古典主義、ロマン主義） 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。</p> <p>【第 12 回】 予習：印象派、後期印象派の作例を調べる。 授業：19 世紀の美術 I（印象派、後期印象派） 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。</p> <p>【第 13 回】</p>				

<p>予習：象徴主義、世紀末美術の作例を調べる。 授業：19世紀の美術Ⅱ（象徴主義、世紀末美術） 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。 【第14回】 予習：抽象美術、シュルレアリスムの作例を調べる。 授業：20世紀の美術Ⅰ（抽象美術、シュルレアリスム） 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。 【第15回】 予習：戦後美術の作例を調べる。 授業：20世紀の美術Ⅱ（戦後美術） 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。</p>								
授業開始前学習	芳賀満ほか（2021）『西洋美術史』秋山聡・田中正之監修（美術出版ライブラリー 歴史編）（東京：美術出版社）で西洋美術史の大まかな流れを把握しておく、授業内容を理解する助けとなる。							
授業内課題のフィードバックの方法	履修者は毎授業後に KOMAJO ポータル上でコメントを提出する。次回授業の冒頭にて、興味深いコメントや質問へのフィードバックを行う。							
テキスト・教材	特に指定しないが、時代区分等は芳賀満ほか（2021年）（授業開始前学習の欄を参照）に沿う。その他、適宜レジュメを配布する。							
参考書	（1992-97）『世界美術大全集 西洋編』（東京：小学館）（全28巻＋索引1巻）。その他、毎回授業内容に沿った参考書を提示する。							
評価の基準と方法	毎授業後に提出するコメントの提出率及び内容と、学期末に提出するレポート（調査学習）の内容により評価する。配点（100点満点における）はコメント30点、レポート70点とする。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	国内観光資源研究 A(東京・首都圏)		
科目分類	120-321-12 (2022 年～入学者) 120-320-12 (~2021 年入学者)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Domestic Tourism Resource Research A (Tokyo / Greater Tokyo Area)	授業区分	講義
科目責任者	太田 亮吾	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	太田 亮吾	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	東京および首都圏は、様々な地理的・社会的特性を持つ多彩な地域で構成される。この講義では、主として歴史の観点から東京を中心に具体的な事例を各回でそれぞれ取り上げ、地域の特性について解説をする。これにより、東京および首都圏には現在どのような観光資源がありうるか、その可能性を考察する。		
到達目標	東京の歴史的な成り立ちと地域の特性を理解し、基礎的な事柄が観光と結び付けて説明できるようになることを到達目標とする。あわせて、東京の観光資源および観光都市としての魅力や課題について考える力を身につけることをめざす。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習 (予習・復習)			
<p>【第 1 回】 予習 : シラバスを読んでおく 授業 : [導入]本講義の概要と東京に関する基本事項の解説 復習 : 授業の進め方について確認する</p> <p>【第 2 回】 予習 : 都心部の地図をみて主な地名を把握する 授業 : 古地図・絵図で眺める江戸の都市空間 復習 : 配布した授業プリントを読み返し要点をまとめる</p> <p>【第 3 回】 予習 : 身近にある文化財を調べる 授業 : 東京の文化財とその活用 復習 : 配布した授業プリントを読み返し要点をまとめる</p> <p>【第 4 回】 予習 : 東京都の地図で大きな公園がある場所を確認する 授業 : 公園・緑地からみる東京の都市構造 復習 : 配布した授業プリントを読み返し要点をまとめる</p> <p>【第 5 回】 予習 : 東京都内にある超高層建築物の所在を調べる 授業 : 東京のランドマークタワー 復習 : 配布した授業プリントを読み返し要点をまとめる</p> <p>【第 6 回】 予習 : 東京の地図で主な鉄道路線を確認する 授業 : 東京の鉄道とその発達 復習 : 配布した授業プリントを読み返し要点をまとめる</p> <p>【第 7 回】 予習 : 東京の地図で東京の主な河川や海岸線の形状を確認する 授業 : 水辺から眺める東京 復習 : 配布した授業プリントを読み返し要点をまとめる</p> <p>【第 8 回】 予習 : 身近にある橋を観察し特徴を整理する 授業 : 東京のさまざまな橋 復習 : 配布した授業プリントを読み返し要点をまとめる</p> <p>【第 9 回】 予習 : 現在の東京の観光案内を調べてその特徴を整理する 授業 : 東京における観光案内の今昔 復習 : 配布した授業プリントを読み返し要点をまとめる</p> <p>【第 10 回】 予習 : 東京都の地図を用いて主な繁華街の位置を調べる 授業 : 盛り場の形成と変遷 復習 : 配布した授業プリントを読み返し要点をまとめる</p> <p>【第 11 回】 予習 : 稲城市や周辺地域の地図ないし地形図を用いて地理的特徴を確認する 授業 : 多摩ニュータウンの造成と地域コミュニティ 復習 : 配布した授業プリントを読み返し要点をまとめる</p> <p>【第 12 回】 予習 : 身近にある観光旅行の広告にはどのような特徴があるか考える 授業 : イメージが作り出す観光需要 復習 : 配布した授業プリントを読み返し要点をまとめる</p>			

<p>【第 13 回】 予習 : 「ダークツーリズム」の意味を調べる 授業 : 観光資源としての戦争遺跡 復習 : 配布した授業プリントを読み返し要点をまとめる</p> <p>【第 14 回】 予習 : 講義で取り上げた文化財に関する説明を確認する 授業 : 文化財活用をめぐる課題 復習 : 配布した授業プリントを読み返し要点をまとめる</p> <p>【第 15 回】 予習 : 提出したレポートを読み返す 授業 : 講義のまとめとレポート課題の講評 復習 : 各回で配布した授業プリントを再復習して定期試験に備える</p>								
授業開始前学習	インターネット検索や、大学図書館・自宅の近くの公共図書館の web サイトで公開している蔵書検索機能を用いて、東京の歴史や文化について書かれた文献を探し、どのような本があるか把握しておくことが望ましい。							
授業内課題の フィードバックの方法	レポート課題については、第 15 回講義で全体の講評を行う。							
テキスト・教材	テキスト（教科書）は特に指定しない。 各回の講義で、授業内容をまとめたプリントを配布する。							
参考書	各回の講義中および配布プリントで紹介する。							
評価の基準と方法	レポート課題の成績により評価を行う。レポートは授業期間中に 2 回出題する（配点は各レポートとも 50 点とし、合計 100 点満点で成績を判定する）。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			
関連科目								
その他	授業プリント等の配布や課題の受付のため、クラスプロファイルおよび GWE(Google Workspace for Education)を活用する。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	国内観光資源研究 B(東日本)		
科目分類	120-321-12 (2022 年～入学者) 120-320-12 (~2021 年入学者)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Domestic Tourism Resource Research B (Eastern Japan)	授業区分	講義
科目責任者	古本 泰之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	古本 泰之	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	本講義では、日本国内の地域的特性を概観した後、北海道・東北地方・関東地方・中部地方にかけての東日本でみられる特色的な観光資源の特性、生活や産業等を精選し、地誌的に解説することで、東日本の地域的特性を考察する。		
到達目標	東日本の観光資源に関する基礎的・基本的な知識・能力を修得することを目的とする。特に、歴史・自然・環境との関連性を踏まえて、東日本を対象とした地域的特性や課題などについて考察できるようにする。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習 (予習・復習)			
<p>【第 1 回】 予習：東日本における都道府県名および主要地名を地図帳等で事前に把握しておく 授業：観光資源の種類と現状 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 2 回】 予習：東日本における世界遺産と国立公園の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：東日本における世界遺産と国立公園の地域的展開 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 3 回】 予習：北海道地方における温泉地の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：北海道地方の温泉観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 4 回】 予習：北海道地方における主要都市の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：北海道地方の歴史文化観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 5 回】 予習：北海道地方における自然地形の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：北海道地方の自然観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 6 回】 予習：東北地方における温泉地の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：東北地方の温泉観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 7 回】 予習：東北地方における主要都市の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：東北地方の歴史文化観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 8 回】 予習：東北地方における自然地形の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：東北地方の自然観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 9 回】 予習：関東地方における温泉地の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：関東地方の温泉観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 10 回】 予習：関東地方における主要都市の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：関東地方の歴史文化観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 11 回】 予習：関東地方における自然地形の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：関東地方の自然観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 12 回】 予習：中部地方における温泉地の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：中部地方の温泉観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p>			

<p>【第13回】 予習：中部地方における主要都市の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：中部地方の歴史文化観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第14回】 予習：中部地方における自然地形の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：中部地方の自然観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第15回】 予習：これまでの学習内容（記入したプリント）を整理し、まとめるとともに定期試験の準備をする 授業：観光資源を評価する意義について理解する。 復習：授業内で配布した全ての資料を整理するとともに、内容を熟読し理解を深める。</p>								
授業開始前学習	日頃の生活の中や各種メディア等における日本の観光資源に関連するトピックを意識的に注視し、地名や観光地理学的な見方・考え方を意識しながら、視野を広げてほしい。							
授業内課題のフィードバックの方法	課題等提出後、翌週にはフィードバックできるよう努めていく。							
テキスト・教材	特に指定はしないが、毎回記入式のプリントを配布し、常に見直ししながら用いていくので、ファイリングし講義の際は常に全て持参すること。							
参考書	山村順次編著（2012）『観光地理学（第2版）—観光地域の形成と課題—』同文館出版 （公財）日本交通公社（2014）『美しき日本 旅の風光』JTBパブリッシング							
評価の基準と方法	試験 70%、小レポート等平常点 30%を基準に、総合的に判断・評価する。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			
関連科目	国内観光資源研究 C(西日本)							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	国内観光資源研究 C(西日本)		
科目分類	120-321-12 (2022 年～入学者) 120-320-12 (~2021 年入学者)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Domestic Tourism Resource Research C (Western Japan)	授業区分	講義
科目責任者	小堀 貴亮	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小堀 貴亮	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	本講義では、西日本における観光資源を類型別に概観した後、近畿地方・中国地方・四国地方・九州地方にかけての西日本でみられる特色的な観光資源の特性を地誌的に解説することで、西日本における観光資源の地域的特性を考察する。		
到達目標	西日本の観光資源に関する基礎的・基本的な知識・能力を修得することを目的とする。特に、歴史・自然・環境との関連性を踏まえて、西日本を対象とした地域的特性や課題などについて考察できるようにする。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習 (予習・復習)			
<p>【第 1 回】 予習：西日本における府県名および主要地名を地図帳等で事前に把握しておく 授業：西日本における観光資源の類型と現状 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 2 回】 予習：西日本における世界遺産と国立公園の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：西日本における世界遺産と国立公園の地域的展開 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 3 回】 予習：西日本における温泉地の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：西日本における温泉地の地域的特性① 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 4 回】 予習：西日本における温泉地の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：西日本における温泉地の地域的特性② 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 5 回】 予習：近畿地方における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：近畿地方の観光資源と地域的特性① 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 6 回】 予習：近畿地方における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：近畿地方の観光資源と地域的特性② 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 7 回】 予習：中国地方における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：中国地方の観光資源と地域的特性① 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 8 回】 予習：中国地方における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：中国地方の観光資源と地域的特性② 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 9 回】 予習：四国地方における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：四国地方の観光資源と地域的特性① 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 10 回】 予習：四国地方における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：四国地方の観光資源と地域的特性② 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 11 回】 予習：九州地方における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：九州地方の観光資源と地域的特性① 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 12 回】 予習：九州における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：九州地方の観光資源と地域的特性② 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p>			

<p>【第 13 回】 予習：沖縄における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：沖縄の観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 14 回】 予習：これまでの学習内容（記入したプリント）を整理し、まとめる。 授業：西日本における観光資源を対象とした着地型観光 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 15 回】 予習：これまでの学習内容（記入したプリント）を整理し、まとめる。 授業：西日本における観光資源の総括 復習：授業内で配布した全ての資料を整理するとともに、内容を熟読し理解を深める。</p>								
授業開始前学習	日頃の生活の中や各種メディア等における日本の観光資源に関連するトピックを意識的に注視し、観光地理学的な見方や考え方を意識しながら、視野を広げてほしい。							
授業内課題のフィードバックの方法	課題等提出後、翌週にはフィードバックできるよう努めていく。							
テキスト・教材	特に指定はしないが、毎回記入式のプリントを配布し、常に見直ししながら用いていくので、ファイリングし講義の際は常に全て持参すること。							
参考書	山村順次編著（2012）：『観光地理学(第2版)—観光地域の形成と課題—』同文館出版							
評価の基準と方法	課題 70%、平常点 30%（課題を含む）を基準に、総合的に判断・評価する。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			
関連科目	国内観光資源研究 B(東日本)							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	日本史 I (古代)		
科目分類	111-331-12 (2022 年～入学者) 111-330-12 (~2021 年入学者)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese History I (Ancient Times)	授業区分	講義
科目責任者	市川 理恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	市川 理恵	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	奈良・平安時代の歴史を六国史や古記録、木簡、正倉院文書などを用いて解説します。長屋王の変や天然痘の大流行、平城上皇の変・菅原道真の左遷など政治上、有名な事件を取り上げ、これらの事件が奈良・平安時代の政治史のなかで、どのように位置づけられるのかを解説します。		
到達目標	史料が読めるようになること、さらに史料を引用して論述できるようになる。 また古代の政治史に関する知識を、一通り習得できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：日本古代の政治史について一通り調べる。 授業：日本古代史の研究手法 復習：配布資料「日本古代史の研究手法」を読む。</p> <p>【第 2 回】 予習：長屋王について調べる。 授業：長屋王の変と『長屋王家木簡』 復習：配布資料「長屋王の変と『長屋王家木簡』」を読む。</p> <p>【第 3 回】 予習：天然痘について調べる。 授業：天然痘流行と奈良時代の医療 復習：配布資料「天然痘流行と奈良時代の医療」を読む。</p> <p>【第 4 回】 予習：「貧窮問答歌」について調べる。 授業：農民の暮らし 復習：配布資料「農民の暮らし」を読む。</p> <p>【第 5 回】 予習：正倉院展について調べる 授業：大仏開眼会と正倉院宝物 復習：配布資料「大仏開眼会と正倉院宝物」を読む。</p> <p>【第 6 回】 予習：正倉院文書について調べる 授業：正倉院文書の世界 復習：配布資料「正倉院文書の世界」を読む。</p> <p>【第 7 回】 予習：藤原仲麻呂について調べる。 授業：藤原仲麻呂の乱 復習：配布資料「藤原仲麻呂の乱」を読む。</p> <p>【第 8 回】 予習：平安京について調べる。 授業：桓武朝の遷都と征夷 復習：配布資料「桓武朝の遷都と征夷」を読む。</p> <p>【第 9 回】 予習：藤原薬子について調べる。 授業：平城上皇の変 復習：配布資料「平城上皇の変」を読む。</p> <p>【第 10 回】 予習：藤原基経について調べる。 授業：藤原良房・基経の権力掌握 復習：配布資料「藤原良房・基経の権力掌握」を読む。</p> <p>【第 11 回】 予習：菅原道真について調べる。 授業：菅原道真と藤原時平 復習：配布資料「菅原道真と藤原時平」を読む。</p> <p>【第 12 回】 予習：摂関政治について調べる。 授業：摂関政治と儀式書 復習：配布資料「摂関政治と儀式書」を読む。</p>			

<p>【第13回】 予習：『大鏡』について調べる。 授業：『大鏡』『栄花物語』と摂関政治 復習：配布資料『大鏡』『栄花物語』と摂関政治を読む。</p> <p>【第14回】 予習：安倍晴明について調べる 授業：陰陽道・末法思想と浄土信仰 復習：配布資料「末法思想と浄土信仰」を読む。</p> <p>【第15回】 予習：藤原頼通について調べる。 授業：院政の成立 復習：配布資料「院政の成立」を読む。</p>								
授業開始前学習	奈良・平安時代の歴史を学習しておくことで授業が理解しやすい。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回、「授業の感想・質問」を提出する。質問は次回の授業で回答する。							
テキスト・教材	毎回、資料を配付する。							
参考書								
評価の基準と方法	定期試験の成績（70%）と授業態度（30%）で評価を行う。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成	社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成	日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成	日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎		
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	日本史Ⅱ(中世)		
科目分類	111-331-12 (2022年～入学者) 111-330-12 (～2021年入学者)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese History II (Middle Ages)	授業区分	講義
科目責任者	今野 慶信	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	今野 慶信	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	日本中世社会の諸相について、近年の研究動向を紹介しつつ、様々な視点と切り口から講義していく。		
到達目標	日本の中世社会について理解を深め、日本中世社会の特質について説明できるようになる。同時に歴史学の醍醐味と可能性を知り、現代社会との比較を意識した自分なりの興味と関心を身に付ける。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：日本の中世社会について調べ、自分なりに考えておく。 授業：中世の日本社会とは 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、日本の中世社会について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第2回】 予習：中世の国家権力を握る朝廷・幕府・大寺社など中世の「権門」について調べ、自分なりに考えておく。 授業：中世国家論 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、日本中世の国家について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第3回】 予習：手工業者を始め、分業が進んだ中世の職人について調べ、自分なりに考えておく。 授業：中世の職人たち 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の職人たちについて参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第4回】 予習：中世の武士について調べ、自分なりに考えておく。 授業：中世武士論 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の武士について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第5回】 予習：中世の合戦について調べ、自分なりに考えておく。 授業：いさぎの作法 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の合戦について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第6回】 予習：日本の家族の歴史、中世の女性の歴史について調べ、自分なりに考えておく。 授業：中世の家族・女性 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の女性・婚姻について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第7回】 予習：中世武士団の内部構造について調べ、自分なりに考えておく。 授業：総領制 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、武士団の構造について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第8回】 予習：現代の人生儀礼について調べ、自分なりに考えておく。 授業：中世人の人生儀礼 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、武士を始めとする中世人の一生について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第9回】 予習：現代の年中行事について、その由来などを調べ、自分なりに考えておく。 授業：中世武家の年中行事 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世武家の年中行事について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第10回】 予習：中世の法律・裁判について調べ、自分なりに考えておく。 授業：中世の罪と罰 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の法思想について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第11回】 予習：中世の宗教について調べ、自分なりに考えておく。 授業：中世宗教史 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世人の信仰生活について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第12回】 予習：中世に起源を持つ古典芸能等について調べ、自分なりに考えておく。 授業：中世芸能史 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の女性芸能人について参考書等から捕捉しておく。</p>			

<p>【第13回】 予習：地域の特徴を持つ風習や慣習等について調べ、自分なりに考えておく。 授業：東国の風習 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世東国の歴史的風土について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第14回】 予習：「武士道」について調べ、自分なりに考えておく。 授業：「武士道」と中世 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世武士の思想について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第15回】 予習：武士の名前について調べ、自分なりに考えておく。 授業：武士の名字と名乗り 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、名字と名乗りについて参考書等から捕捉しておく。</p>								
授業開始前学習	中学・高校で学んだ日本中世史（平安末期～戦国時代）について復習しておくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	出席を兼ねたレポートについては、実施の1週後に講評を行う。							
テキスト・教材	プリントを配布する。							
参考書	その都度、紹介する。							
評価の基準と方法	授業内のレポート等で評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成	社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎		
関連科目								
その他	授業の進捗状況などによって、内容を変更することがある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	日本史Ⅲ(近世)		
科目分類	111-331-12 (2022年～入学者) (J) 111-330-12 (～2021年入学者) (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese History Ⅲ (Early Modern)	授業区分	講義
科目責任者	鍋本 由徳	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鍋本 由徳	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	この講義は、日本史、特に近世史について学びます。時間を追いながら学ぶ箇所もありますが、各回にトピックを設け、人々の生活や考え方、政治や外交、社会変化や経済の特徴、文化の特質などを扱います。幕府史料や地方史料だけではなく、絵画などを利用してさまざまな角度から近世を読み解きます。近世という時代がどのような時代か、私たちが生きる今の違いを理解しながら、江戸時代の人々の生き様や考え方を学びます。対面授業では、授業中に簡易アンケートや自由記述による情報共有を行う予定です。		
到達目標	日本近世史を知るために必要な基本的な用語・制度を身につけ、説明できるようになる。近代を導く前提としての時代を考えるために、歴史資料を読み解く力を身につけ、解釈の多様性を理解できるようになる。身につけた知識と技能・学びの姿勢を活用して、さまざまな歴史的なできごとに関する「原因→経過→結果、意義」を意識化し、批判的視点を持って歴史を把握できるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：近世史の時期範囲と、どこに画期があるのかを調べる。 授業：近世とはどのような時代か ～中世から近世へ～ 復習：講義全体の概要を振り返り、今後の自身の学修イメージをつくる。</p> <p>【第2回】 予習：教科書第2章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：関ヶ原合戦から徳川政権樹立の課題 ～豊臣 VS 徳川からの脱却～ 復習：徳川家康の意図を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第3回】 予習：教科書第3章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：豊臣と徳川との二重公儀体制 ～主家としての豊臣家～ 復習：二重公儀論の問題を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第4回】 予習：教科書第4章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：徳川政権初期と西洋人 ～西洋人の権力認識～（ディスカッション） 復習：外国人による政権認識を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第5回】 予習：教科書第5章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：司法からみる江戸時代の特徴 ～法令の特徴と裁判～ 復習：法令や裁判の特徴を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第6回】 予習：教科書第6章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：身分制度と社会 ～「士農工商」の誤解～（ディスカッション） 復習：江戸時代の身分を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第7回】 予習：教科書第7章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：「老中制」にみる組織化 ～武家官僚の性格～ 復習：「老中制」形成過程を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第8回】 予習：教科書第8章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：江戸時代の金銭認識 ～両替問題と通貨統一～（ディスカッション） 復習：三貨制度を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第9回】 予習：教科書第9章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：三大改革の特徴と内憂外患 ～幕府政治の矛盾～ 復習：三大改革の流れと特徴を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第10回】 予習：教科書第10章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：伝説・伝承が導く民衆の社会 ～地域形成のあり方～ 復習：佐倉惣五郎にみられる伝承の歴史化を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第11回】 予習：教科書第11章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：江戸時代における情報と文化 ～出版と行動～（ディスカッション） 復習：出版事情と行動（旅や物見遊山）を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p>			

【第12回】
 予習：教科書第12章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。
 授業：外国人の旅と「観光」～17世紀西洋人の日本観～
 復習：西洋人の観た日本観を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。

【第13回】
 予習：教科書第13章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。
 授業：「鎖国」と日本型華夷秩序の成立～西洋史との対比～（ディスカッション）
 復習：「鎖国」論の成立と内容を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。

【第14回】
 予習：教科書第14章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。
 授業：江戸時代の女性～春日局と奥の世界～
 復習：女性の政治参画と春日局の活動を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。

【第15回】
 予習：教科書第15章を読み、かつ第1回から第14回までの要点をまとめておく。
 授業：武家社会の歴史認識～御恩と奉公の再認識～
 復習：幕府や大名家の歴史編纂過程を整理し、全15回講義全体の理解を深める。

授業開始前学習	岩波新書『シリーズ日本近世史』などの概説書を読んでおく授業内容にアプローチしやすくなる。大学入学までに日本史を十分に学習していない受講生は、高校教科書（日本史B）の内容を一読しておきたい。							
授業内課題のフィードバックの方法	1回から14回に実施する小テストの解説は、授業終了時に配付します。小テストの正答率と、各回5項目の到達度（自己評価）の平均値を、次回授業冒頭で示し、理解度の低い箇所を補説します。最終回にて、1回から14回までの小テスト・理解度を示したプリントを配布し、自身の理解を振り返ることができるようにします。							
テキスト・教材	駒沢女子大学教科書シリーズ『日本史Ⅲ（近世）』を利用します。							
参考書	『シリーズ日本近世史』（岩波新書 全5冊 2015年） 『日本近世の歴史』（吉川弘文館 全6冊 2011～13年）							
評価の基準と方法	定期試験 60%、平常点 40%。なお、平常点については、授業内理解度チェック（小テスト）と授業への参加度（リアクション）に相当します。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成	社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成	日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成	日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎		
関連科目	歴史的なできごとに関する解釈・方法や歴史的意義などを学ぶため、日本文化や歴史に関わる科目に関連する。							
その他	成績評価は、15回すべての講義へ出席した場合を前提に設定しています。毎回の講義終了後に、フォームを使った当該講義にかかる小テスト（理解度チェック）をおこないます。学界上の研究状況変化により、教科書での内容や講義内容が若干変更する場合があります。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間 60時間（4時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容	自治体史専門調査員としての経験を活かし、日本の近世史について講義する。							

科目名称	日本史Ⅳ(近現代)		
科目分類	111-331-12 (2022年～入学者) (J) 111-330-12 (～2021年入学者) (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese History IV (Modern)	授業区分	講義
科目責任者	鍋本 由徳	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鍋本 由徳	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	この講義は、日本史のなかの特に近現代史について学びます。原則として、1～12回は明治～戦後の主要トピックを時系列に沿って、13～15回をテーマ史として展開します。政治や外交、社会運動や文化などから多角的に考え、文字資料のほか、絵画・映像・音声など多用して近現代を読み解きます。明治維新から戦後にかけての150年で日本は大きく変化します。前近代と異なる明治・大正・昭和の複雑さやおもしろさを知り、現代日本が抱える問題の背景を考えます。第2回～第14回は、授業内で簡易アンケートや自由記述による情報共有をおこないます。		
到達目標	日本近現代史を知るために必要な基本的な用語・制度を身につけ、説明できるようになる。現代につながる近代国家形成ならびに展開を考えるために、各種資料を使う力を身につけ、解釈の多様性を理解できるようになる。身につけた知識と技術・態度を活用して、できごとに関わる「原因、経過、結果」「意義」を意識化し、批判的視点を持って歴史を把握できるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：江戸時代（19世紀以後）の流れを事前に調べておく。 授業：幕末・維新期の混乱 ～王政復古～ 復習：倒幕をめぐる諸階層の理解を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第2回】 予習：教科書第2章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：近代日本の成立と自由民権運動 ～江戸時代の払拭～（簡易アンケートと情報共有） 復習：民権運動の画期と特徴を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第3回】 予習：教科書第3章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：帝国議会の開設と対外関係問題 ～条約改正と～（簡易アンケートと情報共有） 復習：条約改正の流れを整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第4回】 予習：教科書第4章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：日清・日露戦争 ～政権と政党との対立・協調～（簡易アンケートと情報共有） 復習：両戦争に対する国民理解を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第5回】 予習：教科書第5章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：明治における文化と教育 ～唱歌の成立と変容～（簡易アンケートと情報共有） 復習：唱歌成立の契機と転換を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第6回】 予習：教科書第6章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：近代における女性像 ～「イイ」制度と教育との関わり～（簡易アンケートと情報共有） 復習：男女同権の理念と明治教育を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第7回】 予習：教科書第7章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：大正デモクラシーと護憲運動（簡易アンケートと情報共有） 復習：護憲運動の展開を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第8回】 予習：教科書第8章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：第一次世界大戦前後の国民 ～米騒動と都市問題～（簡易アンケートと情報共有） 復習：米騒動が起こった背景を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第9回】 予習：教科書第9章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：大日本帝国が抱える矛盾 ～英米関係と立憲君主制度～（簡易アンケートと情報共有） 復習：日本の対英米理解を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第10回】 予習：教科書第10章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：戦時中の国民生活 ～メディアとの関わり～（簡易アンケートと情報共有） 復習：国民が知り得た情報を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第11回】 予習：教科書第11章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：終戦 ～戦争末期から占領へ～（簡易アンケートと情報共有） 復習：占領政策と日本政府の対応を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p>			

【第12回】
 予習：教科書第12章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。
 授業：戦後日本の民主化 ～民主化への道～（簡易アンケートと情報共有）
 復習：主に経済政策を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。

【第13回】
 予習：教科書第13章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。
 授業：高度経済成長 ～住宅・都市開発の観点～（簡易アンケートと情報共有）
 復習：鉄道建設と土地開発の関係を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。

【第14回】
 予習：教科書第14章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。
 授業：映画による近現代史理解と課題 ～刷り込み～（簡易アンケートと情報共有）
 復習：映画がもたらす歴史理解の問題点を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。

【第15回】
 予習：教科書第15章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。
 授業：戦後日本の歴史観 ～皇国史観からの脱却～
 復習：科学的歴史学による影響を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。

授業開始前学習	岩波新書『シリーズ日本近現代史』などの概説書を読んでおく授業内容にアプローチしやすくなる。大学入学までに日本史を十分に学習していない受講生は、授業計画（1～12回）については高校教科書（日本史B）の内容を一読しておきたい。13～15回のテーマ史は、東京急行電鉄（東急）や大学が所在する稲城を走る京王電鉄の歴史、戦後間もなく制作された戦争映画や日本軍のことについて描いた中国映画、高校教科書問題について事前に調べておくことよ。							
授業内課題のフィードバックの方法	1回から14回に実施する小テストの解説は、小テスト（Googleフォーム）からの回答でおこないます。小テストの正答率と、各回5項目の到達度（自己評価）の平均値を、次回授業時に公開し、理解度の低い箇所を補説します。最終回にて、1回から14回までの小テスト・理解度全体を示したプリントを配布し、本科目の振り返りをおこないます。							
テキスト・教材	駒沢女子大学教科書シリーズ『日本史Ⅳ（近現代）』を利用します。							
参考書	『シリーズ日本近現代史』（岩波新書 全10冊 2006～2010年） 『日本近代の歴史』（吉川弘文館 全6冊 2016～17年）							
評価の基準と方法	最終レポート 60%、平常点 40%。なお、平常点については、授業内理解度チェック（小テスト）と授業への参加度（シートへの記入状況）に相当します。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎		
関連科目	歴史的なできごとに関する解釈・方法や歴史的意義などを学ぶため、日本文化や歴史に関わる科目に関連する。							
その他	成績評価は、15回すべての講義へ出席した場合を前提に設定しています。毎回の授業終了時に、フォームを使った当該講義の小テスト（理解度確認）をおこないます。学界上の研究状況変化により、教科書での内容や講義内容が変わる場合があります。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間 60時間（4時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容	自治体史専門調査員としての経験を活かし、日本の近現代史について講義する。							

科目名称	日本の文化財 I		
科目分類	111-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Cultural Properties of Japan I	授業区分	講義
科目責任者	小山 貴子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小山 貴子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	文化財を後世に伝えることは、博物館の重要な責務である。近年、文化財・文化遺産については、保存と活用が要求されており、博物館学芸員には、文化財保存・保護に関する基礎的事項を理解し、それらの活用が求められている。本授業では、文化財の保護やさまざまな文化財に関する歴史を振り返りながら、その見方や活用方法などを学ぶ。		
到達目標	文化財への理解を図り、その保存・活用の方法を考えることができるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：この授業のシラバスを通読しておく。 授業：オリエンテーション。この授業および文化財の見方・考え方について説明する。 復習：授業の内容を確認する。</p> <p>【第2回】 予習：文化財とは何か、文化財にはどのようなものがあるか調べる 授業：文化財の種類や文化財保護の歴史について概説 復習：文化財の種類、歴史を確認する</p> <p>【第3回】 予習：文化財保護および博物館の役割を調べる 授業：文化財保護法改正と文化財・博物館行政について概説 復習：文化財保護法と博物館行政について確認する</p> <p>【第4回】 予習：古代の史跡・遺跡にはどのようなものがあるか調べる 授業：古代の史跡・遺跡について概説 復習：古代の史跡・遺跡について確認する</p> <p>【第5回】 予習：中世の史跡・遺跡にはどのようなものがあるか調べる 授業：中世の史跡・遺跡について概説 復習：中世の史跡・遺跡について確認する</p> <p>【第6回】 予習：近世の史跡・遺跡にはどのようなものがあるか調べる 授業：近世の史跡・遺跡について概説 復習：近世の史跡・遺跡について確認する</p> <p>【第7回】 予習：近現代の史跡・遺跡にはどのようなものがあるか調べる 授業：近現代の史跡・遺跡について概説 復習：近現代の史跡・遺跡について確認する</p> <p>【第8回】 予習：建造物（寺院・寺社）にはどのようなものがあるか調べる 授業：建造物（寺院・寺社）について概説 復習：建造物（寺院・寺社）について確認する</p> <p>【第9回】 予習：建造物（城郭）にはどのようなものがあるか調べる 授業：建造物（城郭）について概説 復習：建造物（城郭）について確認する</p> <p>【第10回】 予習：住宅の歴史について調べる 授業：住宅の歴史について概説 復習：住宅の歴史について確認する</p> <p>【第11回】 予習：近代建造物にはどのようなものがあるか調べる 授業：近代建造物について概説 復習：近代建造物について確認する</p> <p>【第12回】 予習：近代建造物にはどのようなものがあるか調べる 授業：近代建造物について概説 復習：近代建造物について確認する</p>			

<p>【第13回】 予習：文化的景観にはどのようなものがあるか調べる 授業：文化的景観（街並みと景観）について概説 復習：文化的景観について確認する</p> <p>【第14回】 予習：石造物にはどのようなものがあるか調べる 授業：石造物について概説 復習：石造物について確認する</p> <p>【第15回】 予習：石造物にはどのようなものがあるか調べる 授業：石造物について概説 復習：石造物について確認する</p>								
授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	次回授業開始時にコメントに関する講評（主に質問への回答、フィードバック）を行う。							
テキスト・教材	授業時に適宜プリントを配布する。							
参考書	参考書としては『新版 図説 歴史散歩事典』（山川出版社、2019年）などを使用する。							
評価の基準と方法	レポートで評価を行う。配点（100点満点における）は平常点（授業態度・課題提出）40点、レポート60点の配分とする。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成	社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成	日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成	日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎		○	◎	○		
関連科目								
その他	授業の進捗状況などによって、内容を変更することがある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	博物館学芸員としての実務経験を活かし、文化財について講義をおこなう。							

科目名称	日本の文化財Ⅱ		
科目分類	111-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Cultural Properties of Japan II	授業区分	講義
科目責任者	小山 貴子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小山 貴子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	文化財を後世に伝えることは、博物館の重要な責務である。近年、文化財・文化遺産については、保存と活用が要求されており、博物館学芸員には、文化財保存・保護に関する基礎的事項を理解し、それらの活用が求められている。本授業では、文化財の保護やさまざまな文化財に関する歴史を振り返りながら、その見方や活用方法などを学ぶ。		
到達目標	文化財への理解を図り、その保存・活用の方法を考えることができるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：絵画の歴史について調べる 授業：絵画の歴史について概説 復習：絵画の歴史を確認する</p> <p>【第2回】 予習：絵画（浮世絵）にはどのようなものがあるか調べる 授業：絵画（浮世絵）の歴史について概説 復習：絵画（浮世絵）の歴史を確認する</p> <p>【第3回】 予習：書籍・典籍について調べる 授業：書籍・典籍について概説 復習：書籍・典籍について確認する</p> <p>【第4回】 予習：中世の古文書について調べる 授業：中世の古文書について概説 復習：中世の古文書について確認する</p> <p>【第5回】 予習：中世の古文書について調べる 授業：中世の古文書について概説 復習：中世の古文書について確認する</p> <p>【第6回】 予習：中世の古文書について調べる 授業：中世の古文書について概説 復習：中世の古文書について確認する</p> <p>【第7回】 予習：中世の古文書について調べる 授業：中世の古文書について概説 復習：中世の古文書について確認する</p> <p>【第8回】 予習：中世の古文書について調べる 授業：中世の古文書について概説 復習：中世の古文書について確認する</p> <p>【第9回】 予習：暦・度量衡について調べる 授業：暦・度量衡について概説 復習：暦・度量衡について確認する</p> <p>【第10回】 予習：貨幣の歴史について調べる 授業：貨幣の歴史について概説 復習：貨幣の歴史について確認する</p> <p>【第11回】 予習：埋蔵文化財について調べる 授業：埋蔵文化財について概説 復習：埋蔵文化財について確認する</p> <p>【第12回】 予習：被災資料について調べる 授業：被災資料について概説 復習：被災資料について確認する</p>			

<p>【第13回】 予習：地域資料とは何か調べる 授業：地域資料について概説 復習：地域資料について確認する</p> <p>【第14回】 予習：地域資料とは何か調べる 授業：地域資料について概説 復習：地域資料について確認する</p> <p>【第15回】 予習：地域資料とは何か調べる 授業：地域資料について概説 復習：地域資料について確認する</p>								
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法	次回授業開始時にコメントに関する講評（主に質問への回答、フィードバック）を行う。							
テキスト・教材	授業時に適宜プリントを配布する。							
参考書	参考書としては『新版 図説 歴史散歩事典』（山川出版社、2019年）などを使用する。							
評価の基準と方法	レポートで評価を行う。配点（100点満点における）は平常点（授業態度・課題提出）40点、レポート60点の配分とする。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成	社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎		○	◎	○		
関連科目								
その他	授業の進捗状況などによって、内容を変更することがある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	博物館学芸員としての実務経験を活かし、文化財について講義をおこなう。							

科目名称	歴史資料論		
科目分類	111-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Historical Materials	授業区分	講義
科目責任者	下川 雅弘	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	下川 雅弘	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-706
授業概要	この授業では、日本文化を学ぶ上で基本となる歴史資料について概説し、その読解、調査、整理を行うための基礎知識を修得する。具体的には、古代から近代までの代表的な古文書、古記録等の文献資料、絵図、考古資料等の概要を学んだ上で、とくに近世以降の古文書等の原本資料の読解方法、調査・整理方法について学習する。授業では課題解決型学習を行う。		
到達目標	1. 歴史資料について、その特質を理解できる。 2. 歴史資料の読み方と扱い方を身に付けることができる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスを読み、学修内容を確認する 授業：歴史資料とは何か 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する</p> <p>【第2回】 予習：輪読資料の解題と関連史跡についてテキストを読んでおく 授業：輪読資料の解題と関連史跡 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する</p> <p>【第3回】 予習：歴史資料の調査・整理方法についてテキストを読んでおく 授業：歴史資料の調査・整理方法 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する</p> <p>【第4回】 予習：歴史資料を読解するための基礎知識についてプリントを読んでおく 授業：歴史資料を読解するための基礎知識 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する</p> <p>【第5回】 予習：資料を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『農事日記』明治37年1月1日～4日の翻刻（課題解決型学習） 復習：翻刻課題をフォームで提出する</p> <p>【第6回】 予習：資料を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『農事日記』明治37年1月1日～4日の考察（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第7回】 予習：資料を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『農事日記』明治37年2月6日の翻刻（課題解決型学習） 復習：翻刻課題をフォームで提出する</p> <p>【第8回】 予習：資料を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『農事日記』明治37年2月7日の翻刻（課題解決型学習） 復習：翻刻課題をフォームで提出する</p> <p>【第9回】 予習：資料を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『農事日記』明治37年2月6日・7日の考察（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第10回】 予習：資料を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『農事日記』明治37年2月29日・3月1日の翻刻（課題解決型学習） 復習：翻刻課題をフォームで提出する</p> <p>【第11回】 予習：資料を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『農事日記』明治37年2月29日・3月1日の考察（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第12回】 予習：資料を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『農事日記』明治39年3月9日の翻刻（課題解決型学習） 復習：翻刻課題をフォームで提出する</p>			

<p>【第13回】 予習：資料を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『農事日記』明治39年3月10日の翻刻（課題解決型学習） 復習：翻刻課題をフォームで提出する</p> <p>【第14回】 予習：資料を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『農事日記』明治39年3月9日・10日の考察（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第15回】 予習：歴史資料論の学びを振り返る 授業：歴史資料論の学びの総括 復習：ミニレポート課題をフォームで提出する</p>								
授業開始前学習	歴史資料に関する書籍を1冊読んでおくことが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の事前学習課題に対して、次回の授業時に受講者からの回答を紹介し、コメント・講評を行う。							
テキスト・教材	駒沢女子大学講義ノートシリーズ『歴史資料論』 必要に応じてプリントを配付する。							
参考書	適宜、授業に沿って推薦図書を紹介する。							
評価の基準と方法	事前学習課題75%、平常点（感想等）15%、ミニレポート10%で評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎	○	
関連科目								
その他	授業の進捗状況や受講者数などによって、内容を変更することがある。 この授業では、土曜日などに正課学外活動（輪読資料に関連する稲城市内の史跡見学等）を行う予定である。若干の交通費の負担が必要な場合がある。							
予習・復習の所要時間	講義時間30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間60時間（4時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容	自治体史編纂の実務経験あり。古文書などの歴史資料の読解、取扱方法などを講義する。							

科目名称	民俗資料論		
科目分類	111-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Folk Materials	授業区分	講義
科目責任者	下川 雅弘	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	下川 雅弘	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-706
授業概要	この授業では、日本文化を学ぶ上で基本となる有形・無形の民俗資料について概説し、その読解、調査、整理を行うための基礎知識を修得する。具体的には、地域文化を理解するために有益な風習・伝説・信仰・芸能・民具等の民俗資料の概要を学んだ上で、とくに稲城市域に伝承されてきた民俗資料を事例として取り扱いながら、その読解方法、調査・整理方法について学習する。授業では課題解決型学習を行う。		
到達目標	1. 民俗資料について、その特質を理解できる。 2. 民俗資料の調べ方や扱い方を身に付けることができる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスを読み、学修内容を確認する 授業：民俗資料および民俗学とは（その1） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する</p> <p>【第2回】 予習：戦後の民俗調査と民俗資料の分類方法についてテキストを読んでおく 授業：戦後の民俗調査と民俗資料の分類方法 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する</p> <p>【第3回】 予習：民俗資料の調査および記録方法についてテキストを読んでおく 授業：民俗資料の調査および記録方法 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する</p> <p>【第4回】 予習：有形民俗資料調査の実践についてテキストを読んでおく 授業：有形民俗資料調査の実践 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する</p> <p>【第5回】 予習：稲城市内の民俗資料の一例についてテキストを読んでおく 授業：稲城市内の民俗資料の一例 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する</p> <p>【第6回】 予習：民俗資料および民俗学とはについてテキストを読んでおく 授業：民俗資料および民俗学とは（その2） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する</p> <p>【第7回】 予習：資料を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『村の志るべ拾遺鈔』4 宝泉寺の翻刻（課題解決型学習） 復習：翻刻課題をフォームで提出する</p> <p>【第8回】 予習：資料を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『村の志るべ拾遺鈔』4 宝泉寺の考察（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第9回】 予習：資料を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『村の志るべ拾遺鈔』18・19 御座松塚の翻刻（課題解決型学習） 復習：翻刻課題をフォームで提出する</p> <p>【第10回】 予習：資料を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『村の志るべ拾遺鈔』18・19 御座松塚の考察（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第11回】 予習：資料を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『村の志るべ拾遺鈔』21 入定塚・郷蔵の翻刻（課題解決型学習） 復習：翻刻課題をフォームで提出する</p> <p>【第12回】 予習：テキストの該当部分を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『村の志るべ拾遺鈔』21 入定塚・郷蔵の考察（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する</p>			

<p>【第13回】 予習：資料を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『村の志るべ拾遺鈔』8平尾爆竹場の翻刻（課題解決型学習） 復習：翻刻課題をフォームで提出する</p> <p>【第14回】 予習：資料を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『村の志るべ拾遺鈔』8平尾爆竹場の考察（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第15回】 予習：民俗資料論の学びを振り返る 授業：民俗資料論の学びの総括 復習：ミニレポート課題をフォームで提出する</p>								
授業開始前学習	民俗資料に関する書籍を1冊読んでおくことが望ましい。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回の事前学習課題に対して、次回の授業時に受講者からの回答を紹介し、コメント・講評を行う。							
テキスト・教材	駒沢女子大学講義ノートシリーズ『民俗資料論』 必要に応じてプリントを配付する。							
参考書	適宜、授業に沿って推薦図書を紹介する。							
評価の基準と方法	事前学習課題75%、平常点（感想等）15%、ミニレポート10%で評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎	○	
関連科目								
その他	授業の進捗状況や受講者数などによって、内容を変更することがある。 この授業では、土曜日などに正課学外活動（稲城市内での石造物調査や輪読資料に関連する史跡見学等）を行う予定である。若干の交通費の負担が必要な場合がある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	自治体史編纂の実務経験あり。石造物・編纂物などの民俗資料の読解、取扱方法などを講義する。							

科目名称	歴史考古学		
科目分類	111-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Historical Archeology	授業区分	講義
科目責任者	今野 慶信	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	今野 慶信	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	歴史考古学、とりわけ近年進展の著しい中世考古学について、最新の研究動向を紹介しつつも、なるべく身近な事例を取り上げて講義していく。		
到達目標	中世考古学について理解を深め、日本中世社会の特質について説明できるようになる。同時に考古学の醍醐味と可能性を知り、日本中世社会への自分なりの興味と視点を身に付ける。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：考古学について調べ、自分なりに考えておく。 授業：中世考古学とは 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世考古学について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第2回】 予習：前近代における日本の貨幣について調べ、自分なりに考えておく。 授業：モノから見た中世経済 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の社会経済史について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第3回】 予習：現代に流通している陶磁器類について調べ、自分なりに考えておく。 授業：モノから見た中世物流 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の物流について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第4回】 予習：呪い（まじない）について調べ、自分なりに考えておく。 授業：モノから見た中世の信仰 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、経塚などの中世特有の信仰遺物について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第5回】 予習：現在の葬送儀礼について調べ、自分なりに考えておく。 授業：中世の葬送 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の葬送関係遺物について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第6回】 予習：古代寺院の伽藍配置や現在の鎌倉五山の伽藍配置などについて調べ、自分なりに考えておく。 授業：中世のお寺 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世寺院とその遺構について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第7回】 予習：近隣の中世前期の武士の本拠地について調べ、自分なりに考えておく。 授業：中世の城① 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世前期の武士の本拠地について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第8回】 予習：近隣の室町時代の武士の城について調べ、自分なりに考えておく。 授業：中世の城② 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の城館について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第9回】 予習：近隣の戦国時代の城について調べ、自分なりに考えておく。 授業：中世の城③ 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、戦国時代の城について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第10回】 予習：古代以来の政治都市について調べ、自分なりに考えておく。 授業：中世都市① 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の政治都市について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第11回】 予習：東国の首都・鎌倉について調べ、自分なりに考えておく。 授業：中世都市② 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、鎌倉の都市空間について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第12回】 予習：中世の農村について調べ、自分なりに考えておく。 授業：中世の村 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の農村について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第13回】</p>			

<p>予習：近隣の「鎌倉街道」などの古道について調べ、自分なりに考えておく。 授業：中世のみち 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世古道について参考書等から捕捉しておく。 【第14回】 予習：稲城市・川崎市周辺の中世史について調べ、自分なりに考えておく。 授業：あしもの中世 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、自分の足元の地域史について考えてみる。 【第15回】 予習：江戸時代の人々が使った様々な道具について調べ、自分なりに考えておく。 授業：江戸考古へ 復習：ノート・配布資料で半年間の授業を振り返り、歴史考古学について整理してみる。</p>								
授業開始前学習	中学・高校で学んだ日本中世史（平安末期～戦国時代）について復習しておくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	出席を兼ねたレポートについては、実施の1週後に講評を行う。							
テキスト・教材	プリントを配布する。							
参考書	その都度、紹介する。							
評価の基準と方法	授業内のレポート等で評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎	○	
関連科目								
その他	授業の進捗状況などによって、内容を変更することがある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	歴史地理学		
科目分類	111-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Historical Geography	授業区分	講義
科目責任者	武廣 亮平	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	武廣 亮平	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	東京多摩地域の特色を歴史地理学的観点から学ぶ。多摩地域の先史時代から近現代までの歴史と地理的な特徴について、さまざまなテーマを設定して考える。		
到達目標	駒沢女子大学が立地する多摩地域を中心とした地理や歴史を学ぶことで、当該地域の地理的・歴史的意義や特徴を再認識することができる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスによる授業内容の確認 授業：オリエンテーション（授業概要） 復習：各授業テーマと要点の確認</p> <p>【第2回】 予習：多摩の地形図からその特徴を調べる 授業：多摩の地形とその成り立ち 復習：授業内容のノート整理と要点の確認</p> <p>【第3回】 予習：縄文～古墳時代の文化を調べる 授業：先史時代の多摩地域 復習：授業内容のノート整理と要点の確認</p> <p>【第4回】 予習：律令国家の政治と仏教政策について調べる 授業：武蔵国府と国分寺 復習：授業内容のノート整理と要点の確認</p> <p>【第5回】 予習：『万葉集』の東歌と防人歌について調べる 授業：『万葉集』に詠まれた古代の多摩 復習：授業内容のノート整理と要点の確認</p> <p>【第6回】 予習：穴沢天神社（京王読売ランド駅から徒歩5分）に行ってみる（可能な範囲で） 授業：多摩郡の式内社と大國魂神社 復習：授業内容のノート整理と要点の確認</p> <p>【第7回】 予習：現在の鎌倉街道のルートを地図で確認する 授業：鎌倉街道を辿る 復習：授業内容のノート整理と要点の確認</p> <p>【第8回】 予習：後北条氏の坂東支配について調べる 授業：戦国時代の多摩地域 復習：授業内容のノート整理と要点の確認</p> <p>【第9回】 予習：江戸時代の多摩郡の範囲を確認する 授業：『新編武蔵風土記稿』に見る江戸時代の多摩 復習：授業内容のノート整理と要点の確認</p> <p>【第10回】 予習：幕末の政治と外交について調べる 授業：「新選組」と多摩の剣術 復習：授業内容のノート整理と要点の確認</p> <p>【第11回】 予習：征韓論から自由民権運動の展開までの歴史をまとめる 授業：自由民権運動と「絹の道」ー多摩の近代ー 復習：授業内容のノート整理と要点の確認</p> <p>【第12回】 予習：太平洋戦争の開戦から敗戦までをまとめる 授業：多摩の戦争遺跡 復習：授業内容のノート整理と要点の確認</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : 高度経済成長期の日本について調べる 授業 : 多摩ニュータウンの歴史 復習 : 授業内容のノート整理と要点の確認 【第14回】 予習 : 各自の家庭で行っている年中行事を確認する 授業 : 多摩の年中行事 復習 : 授業内容のノート整理と要点の確認 【第15回】 予習 : 授業内容のノートの整理 授業 : 授業の総括 復習 : 多摩の地理と歴史を自分なりにまとめる								
授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	授業内のレポートや課題は次回の授業時に講評を行う。個別の質問についても毎回授業終了時に対応する。							
テキスト・教材	テキストは特に指定せず、毎回プリントを配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	平常点（授業時の提出物）40点、レポート40点、定期試験（20点）							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成	社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎	○	
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	文化交流史 I		
科目分類	111-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	History of Cultural Exchange I	授業区分	講義
科目責任者	市川 理恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	市川 理恵	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	日本と海外との文化交流の歴史について、旧石器時代から鎌倉時代までを取り上げます。海外から何がもたらされたのか、そしてこのうち日本は、何を受容したのかを解説します。さらにそれが日本の文化や歴史に、どのような影響を与えたのかを論じていきます。		
到達目標	1 日本の文化・歴史を、海外との交流史のなかで捉え直すことができる。 2 海外の文化が、日本の文化・歴史にどのような影響を与えたかを理解することができる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：旧石器遺跡捏造事件について調べる。 授業：旧石器時代の文化交流 復習：教科書の「旧石器時代の文化交流」を読む。</p> <p>【第 2 回】 予習：三内丸山遺跡について調べる。 授業：縄文から弥生へ 復習：教科書の「縄文から弥生へ」を読む。</p> <p>【第 3 回】 予習：邪馬台国について調べる。 授業：倭人と中国王朝 復習：教科書の「倭人と中国王朝」を読む。</p> <p>【第 4 回】 予習：欠史八代について調べる。 授業：神話から歴史へ 復習：教科書の「神話から歴史へ」を読む。</p> <p>【第 5 回】 予習：蘇我馬子について調べる。 授業：六世紀の国際関係と仏教伝来 復習：教科書の「六世紀の国際関係と仏教伝来」を読む。</p> <p>【第 6 回】 予習：天智天皇について調べる。 授業：大化の改新と白村江の戦い 復習：教科書の「大化の改新と白村江の戦い」を読む。</p> <p>【第 7 回】 予習：持統天皇について調べる。 授業：律令の導入と古代国家の成立 復習：教科書の「律令の導入と古代国家の成立」を読む。</p> <p>【第 8 回】 予習：光明皇后について調べる。 授業：聖武天皇・光明皇后と国家仏教 復習：教科書の「聖武天皇・光明皇后と国家仏教」を読む。</p> <p>【第 9 回】 予習：大伴古麻呂について調べる。 授業：遣唐使がもたらしたもの 復習：教科書の「遣唐使がもたらしたもの」を読む。</p> <p>【第 10 回】 予習：道鏡について調べる。 授業：国家仏教の行く末 復習：教科書の「国家仏教の行く末」を読む。</p> <p>【第 11 回】 予習：空海について調べる。 授業：最澄・空海とその後の仏教 復習：教科書の「最澄・空海とその後の仏教」を読む。</p> <p>【第 12 回】 予習：円仁について調べる。 授業：入唐八家と聖地巡礼 復習：教科書の「入唐八家と聖地巡礼」を読む。</p>			

<p>【第13回】 予習：藤原隆家について調べる。 授業：遣唐使廃止後の対外交流と国風文化 復習：教科書の「遣唐使廃止後の対外交流と国風文化」を読む。</p> <p>【第14回】 予習：平清盛について調べる。 授業：日宋貿易と禅宗の伝来 復習：教科書の「日宋貿易と禅宗の伝来」を読む。</p> <p>【第15回】 予習：教科書を一通り読む。 授業：旧石器時代から鎌倉時代における文化交流の総括 復習：日本が海外から受容した文化について時代ごとにまとめておく。</p>								
授業開始前学習	鎌倉時代までの日本の歴史を学習しておくことで授業が理解しやすい。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回、「授業の感想・質問」を提出する。質問は次回の授業で回答する。							
テキスト・教材	授業開始時にテキスト（駒沢女子大学教科書シリーズ）を指示する。							
参考書								
評価の基準と方法	定期試験の結果（70%）と授業態度（30%）で評価を行う。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	文化交流史Ⅱ		
科目分類	111-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	History of Cultural Exchange II	授業区分	講義
科目責任者	市川 理恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	市川 理恵	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	日本と海外との文化交流の歴史について、鎌倉時代から明治時代までを取り上げます。日本が海外から何を受容し、何を排除したのかを解説するとともに、このことが日本の文化や歴史にどのような影響を与えたのかを論じていきます。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 日本文化・歴史を、海外との交流史のなかで捉え直すことができる。 2 海外の文化が、日本文化・歴史にどのような影響を与えたかを理解することができる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：元寇について調べる。 授業：蒙古襲来と鎌倉幕府 復習：教科書の「蒙古襲来と鎌倉幕府」を読む。</p> <p>【第2回】 予習：足利尊氏について調べる。 授業：日明貿易と室町幕府 復習：教科書の「日明貿易と室町幕府」を読む。</p> <p>【第3回】 予習：足利義満について調べる。 授業：14・15世紀の中国・朝鮮と琉球 復習：教科書の「14・15世紀の中国・朝鮮と琉球」を読む。</p> <p>【第4回】 予習：織田信長について調べる。 授業：戦国大名と鉄砲伝来 復習：教科書の「戦国大名と鉄砲伝来」を読む。</p> <p>【第5回】 予習：豊臣秀吉について調べる。 授業：キリスト教の伝来と弾圧 復習：教科書の「キリスト教の伝来と弾圧」を読む。</p> <p>【第6回】 予習：徳川家康について調べる。 授業：江戸幕府と鎖国政策 復習：教科書の「江戸幕府と鎖国政策」を読む。</p> <p>【第7回】 予習：徳川家光について調べる。 授業：長崎貿易と洋学 復習：教科書の「長崎貿易と洋学」を読む。</p> <p>【第8回】 予習：高野長英について調べる。 授業：アヘン戦争とアジア 復習：教科書の「アヘン戦争とアジア」を読む。</p> <p>【第9回】 予習：黒船について調べる。 授業：黒船来航と開国 復習：教科書の「黒船来航と開国」を読む。</p> <p>【第10回】 予習：安政の大獄について調べる。 授業：「万国公法」と世界 復習：教科書の「万国公法」と世界」を読む。</p> <p>【第11回】 予習：戊辰戦争について調べる 授業：国際化のなかの幕府と薩長 復習：教科書の「国際化のなかの幕府と薩長」を読む。</p> <p>【第12回】 予習：岩倉使節団について調べる。 授業：明治維新と文明開化 復習：教科書の「明治維新と文明開化」を読む。</p>			

<p>【第13回】 予習：江華島事件について調べる。 授業：朝鮮半島情勢と日本の領土確定 復習：教科書の「朝鮮半島情勢と日本の領土確定」を読む。</p> <p>【第14回】 予習：大久保利通について調べる。 授業：殖産興業 復習：教科書の「殖産興業」を読む。</p> <p>【第15回】 予習：教科書を一通り読む。 授業：鎌倉時代～明治時代までの文化交流の総括 復習：日本が海外から受容した文化、排除した文化について時代ごとにまとめておく。</p>								
授業開始前学習	鎌倉時代から明治時代までの日本の歴史を学習しておくことと授業が理解しやすい。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回、「授業の感想・質問」を提出する。質問は次回の授業で回答する。							
テキスト・教材	授業開始時にテキスト（駒沢女子大学教科書シリーズ）を指示する。							
参考書								
評価の基準と方法	定期試験の結果（70%）と授業態度（30%）で評価を行う。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								